

2021 年

介護老人福祉施設等で働く看護職員の実態調査

調査報告書



公益社団法人岡山県看護協会

社会経済福祉委員会

# 目 次

介護老人福祉施設等で働く看護職員の実態調査の概要	1
I 調査目的	1
II 調査方法	1
III 調査結果	2
1. 回答者の属性	2
2. 勤務している施設について	7
3. 待遇について	12
4. 看護職員が行っている業務	19
5. 現在の業務で不安に感じること	24
6. 研修体制	26
7. アンケートについての意見等の自由記載について	35
IV まとめ	38

(参考資料)調査依頼文書・調査用紙

## 介護老人福祉施設等で働く看護職員の実態調査の概要

介護老人福祉施設等では、要介護 3 以上の重度者や医療ニーズの高い利用者が増えており、看護職は個別の看護ケア、看取り、コロナ禍での感染管理等のマネジメントなど多様な場面での対応が求められている。しかし、施設内の看護職の人員は少ない上、離職率も 21.5% (2014 年度離職率 2015 年日本看護協会調査結果) 高く、病院看護職離職率 11.5% (2019 年度離職率 2020 年日本看護協会調査) より高くなっている。

賃金は、平均給与総月額 310,395 円 (平均年齢 46.0 歳) (2016 年 12 月支給分 2017 年日本看護協会調査) でこれは病院と比較して低くなっている。また自己研鑽上の課題は、「時間がない」「職員の人数が少なく、外部研修にでられない」(2020 年日本看護協会調査) が上位を占めており研修参加の難しさが示されている。これらはすべて日本看護協会調査によるものであり、岡山県看護協会では、2019 年「高齢者ケア施設で働く看護職の実態調査」があるのみである。

この調査でも離職率、賃金額についての調査はできていないが、「看護職員が不足している」「病院より基本給が低い」と感じているとの回答が多くみられた。また業務内容に不安を感じているが 83.3% である。岡山県の介護老人福祉施設等での看護職の労働環境改善、質向上の検討をするためにもまず実態調査の把握が必要と考え、今回介護老人福祉施設等で働く看護職員の実態調査を行うこととする。

### I 調査目的

岡山県内の介護老人福祉施設等で働く看護職員の課題を抽出するため調査を行い、実態を把握し、結果を踏まえ、課題解決のための研修会や交流会の開催、岡山県や岡山県勤務環境センター等への提言の資料とする。

### II 調査方法

1. 調査対象: 岡山県ホームページに掲載されている「保健福祉施設・病院名簿(令和 3 年 4 月 1 日現在)」の介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)、介護老人保健施設で働く看護職員の中で看護職員の代表者 1 名 計 320 名(看護協会員・非会員は不問)
2. 調査期間: 令和 4 年 1 月 7 日～令和 4 年 1 月 31 日
3. 調査方法: 施設代表者から看護職員の代表へ依頼書と同意説明書、調査書を渡してもらい、Google フォームで作成したアンケート回答ページから個別に回答する、または調査用紙で回答し、返信封筒にて回答してもらう。
4. 調査結果: 121 人から回答があり、「調査の趣旨を理解し、研究の参加に同意します」と回答した 120 人(99.1%)を対象に集計を実施した。
5. 調査内容: 別紙参照
6. 倫理的配慮: 回答は研究の参加に同意した人のみを対象とし、施設や個人を特定することはできない。WEB 回答は、ログイン ID とパスワードで岡山県看護協会データ取扱い責任者が厳重管理し、集計・分析後は破棄する。  
また、調査結果は各施設に配布し岡山県看護協会のホームページでも公表する。

### Ⅲ 調査結果

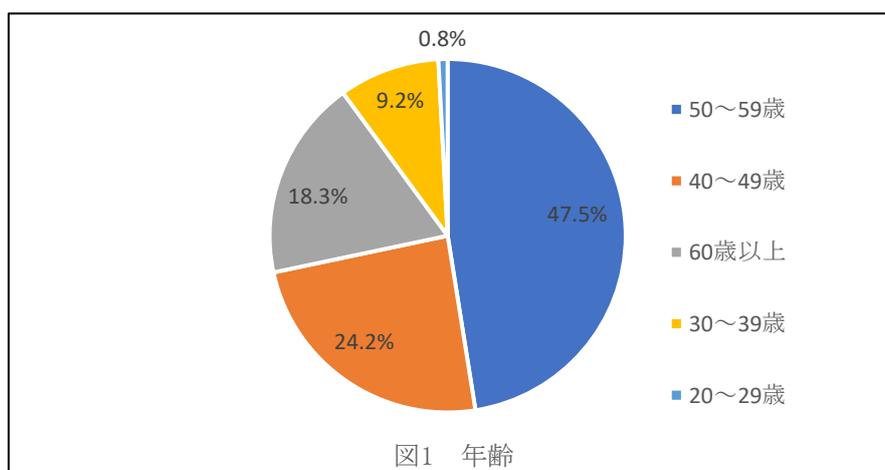
#### 1. 回答者の属性

##### 1) 年齢

年齢は「20～29 歳」0.8%、「30～39 歳」9.2%、「40～49 歳」24.2%、「50～59 歳」47.5%、「60 歳以上」9.2%であった。

表 1 年齢

	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60 歳以上	合計
人数(人)	1	11	29	57	22	120
割合(%)	0.8	9.2	24.2	47.5	9.2	100.0

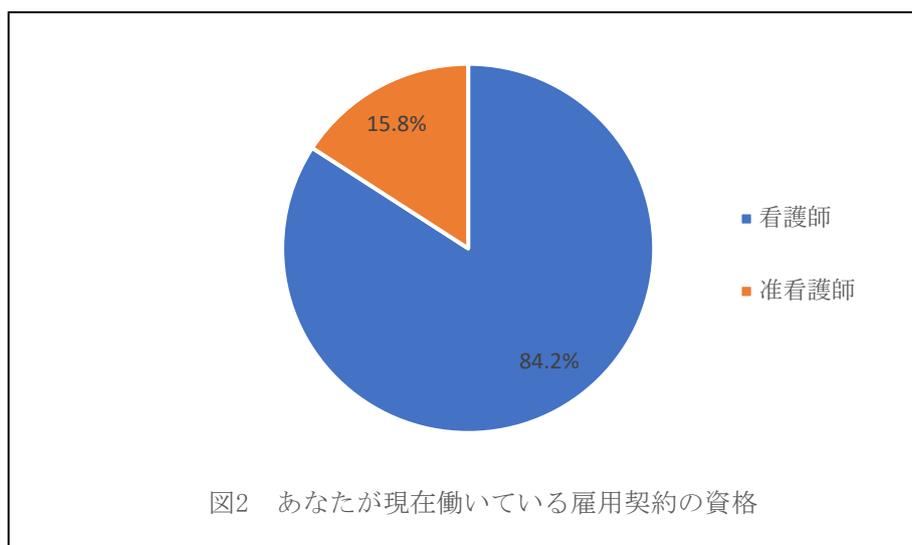


##### 2) 現在働いている雇用契約の資格

現在働いている資格は「看護師」84.2%、「准看護師」15.8%であった。

表 2 雇用契約の資格

	看護師	准看護師	合計
人数(人)	101	19	120
割合(%)	84.2	15.8	100.0

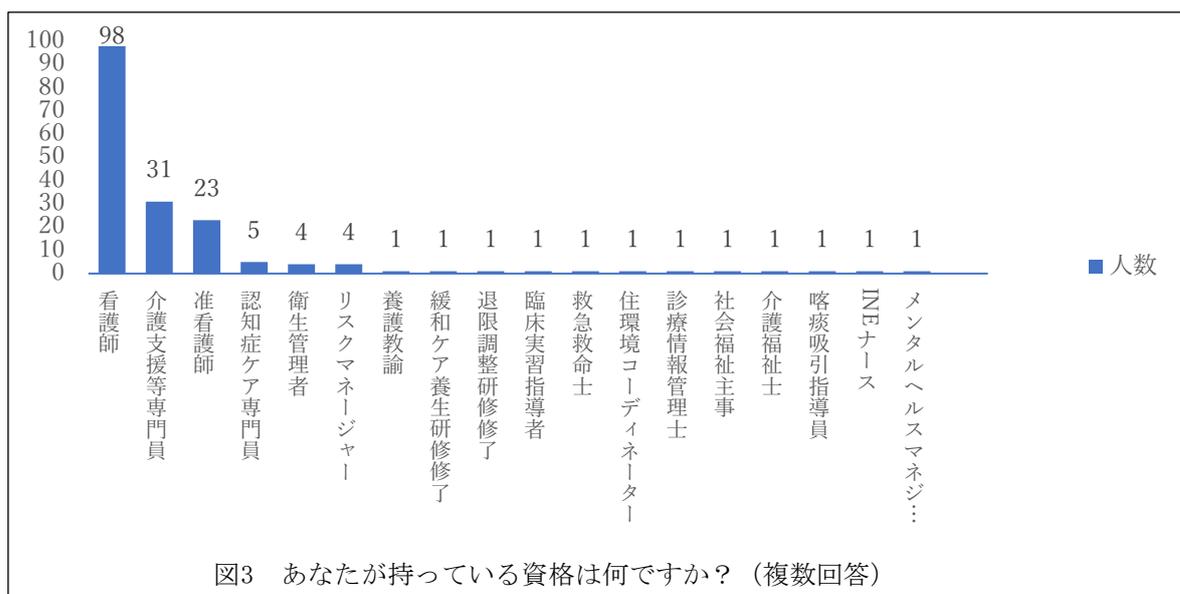


### 3) 保有資格

保有資格は「看護師」が98件と最も多く、次いで「介護支援専門員」31件、「准看護師」23件であった。

表3 保有資格（複数回答）

資格	人数
看護師	98
介護支援専門員	31
准看護師	23
認知症ケア専門士	5
衛生管理者	4
リスクマネージャー	4
養護教諭	1
緩和ケア養成研修修了者	1
退院調整研修修了者	1
臨床実習指導者	1
救急救命士	1
住環境コーディネーター	1
診療情報管理士	1
社会福祉主事	1
介護福祉士	1
喀痰吸引指導員	1
INE ナース	1
メンタルヘルスマネジメント	1

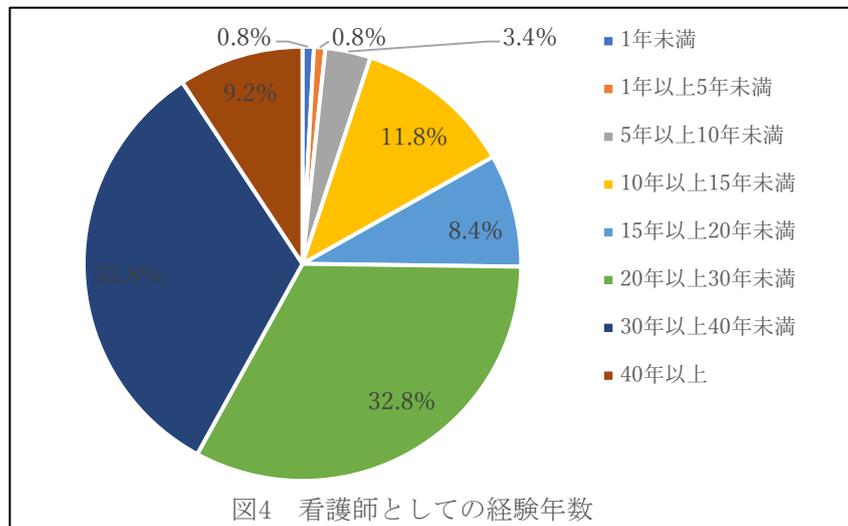


#### 4) 看護師としての経験年数

看護師としての経験年数は「20年以上30年未満」「30年以上40年未満」が32.8%、「10年以上15年未満」11.8%であった。

表4 看護師としての経験年数

経験年数	人数
1年未満	1
1年以上5年未満	1
5年以上10年未満	4
10年以上15年未満	14
15年以上20年未満	10
20年以上30年未満	39
30年以上40年未満	39
40年以上	11

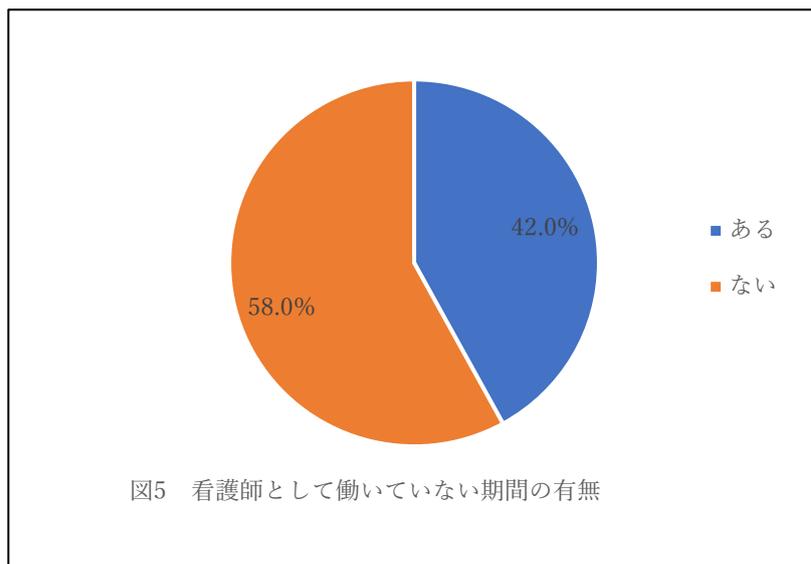


#### 5) 現在の職場に勤務する直前に、看護師として働いていない期間の有無

現在の職場に勤務する直前に看護師として働いていない期間は「ない」58%、「ある」42%あった。

表5 看護師として働いていない期間の有無

	働いていない期間がある	働いていない期間がない	合計
人数(人)	50	69	119
割合 (%)	42	58	100

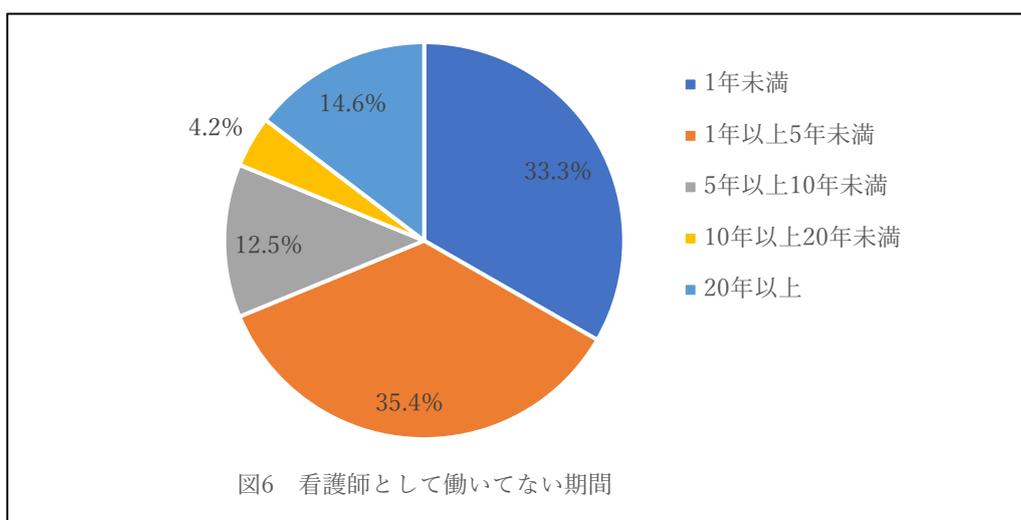


6) 看護師として働いていない期間

看護師として働いていない期間は「1年以上5年未満」が35.4%と最も多く、次いで「1年未満」33.3%、「20年以上」14.6%であった。

表6 看護師として働いていない期間

	1年未満	1年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 20年未満	20年以上	合計
人数(人)	16	17	6	2	7	48
割合 (%)	33.3	35.4	12.5	4.2	14.6	100.0



7) 現在の施設に入職したきっかけ

現在の施設に入職したきっかけは「友人、知人の紹介」が49件と最も多く、次いで「ハローワークの紹介」「家から近い」が18件、「有料職業紹介所の紹介」9件であった。

表7 現在の施設に入職したきっかけ

理由	人数
新聞広告	1
以前働いていた施設のグループ	1
給料が良い	1
保育園が施設内にあった	2
異動	4
労働条件がいいから	4
ナースセンターからの紹介	6
有料職業紹介所	9
自分で探して	13
ハローワークからの紹介	18
家から近いから	18
友人・知人の紹介	49

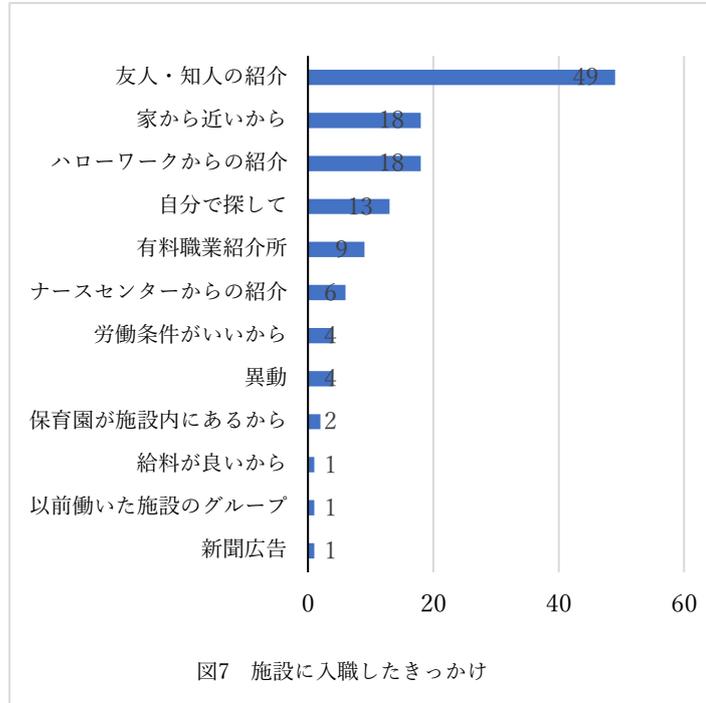


図7 施設に入職したきっかけ

8) 現在の役職

現在の役職は「管理職」52.9%、「スタッフ」47.1%であった。

表8 現在の役職

	管理職	スタッフ	合計
人数(人)	63	56	119
割合(%)	52	47	100

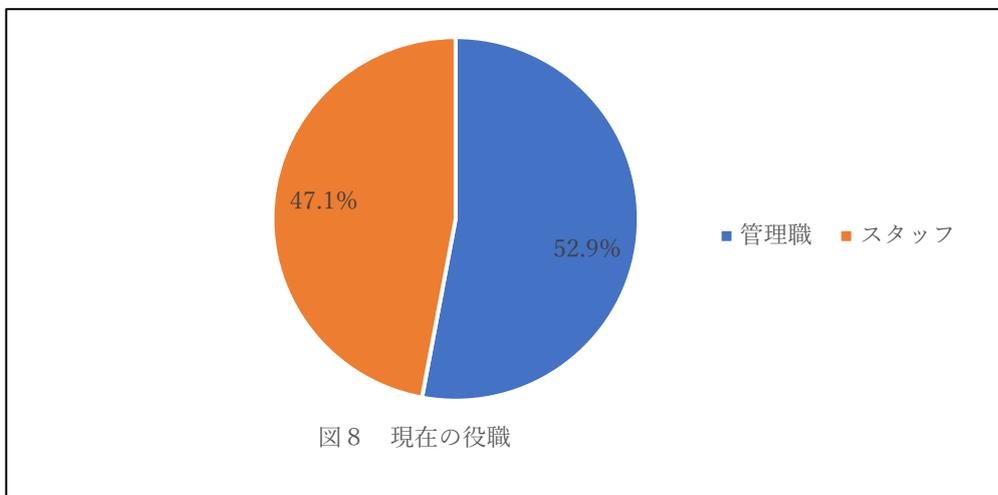


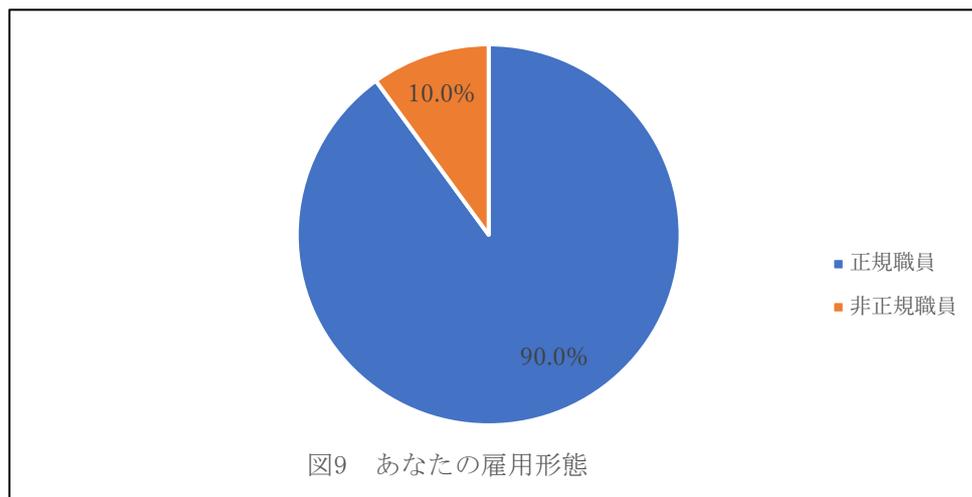
図8 現在の役職

9) 雇用形態

雇用形態は「正規職員」90.0%、「非正規職員」10.0%であった。

表 9 雇用形態

	正規職員	非正規職員	合計
人数(人)	108	12	120
割合(%)	90	10	100



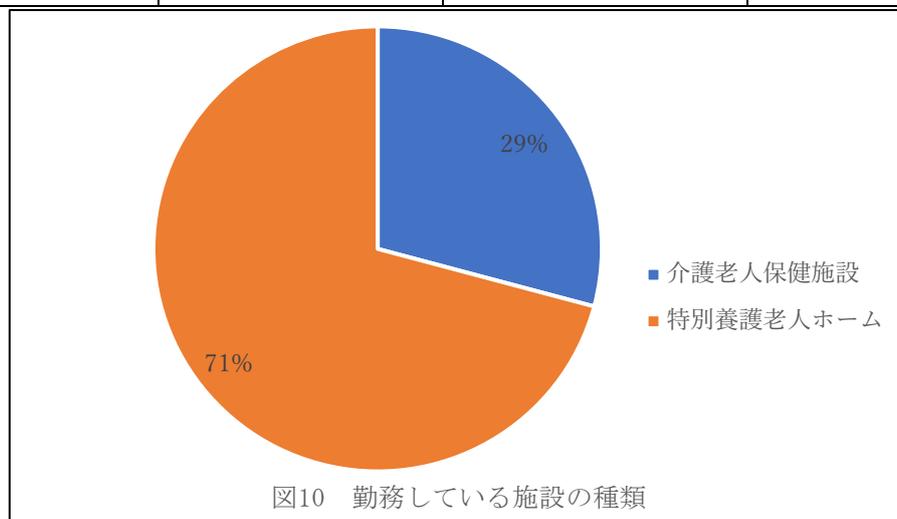
2. 勤務している施設について

1) 現在勤務している施設の種類の

施設の種類の、「介護老人保健施設」29.2%、「特別養護老人ホーム」70.8%であった。

表 10 勤務している施設の種類の

	介護老人保健施設	特別養護老人ホーム	合計
人数(人)	35	85	120
割合(%)	29	71	100

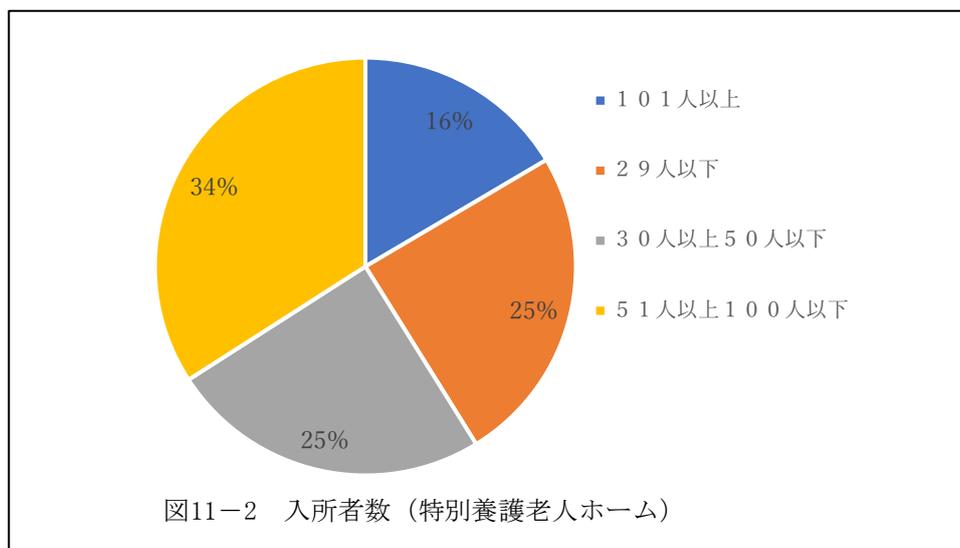
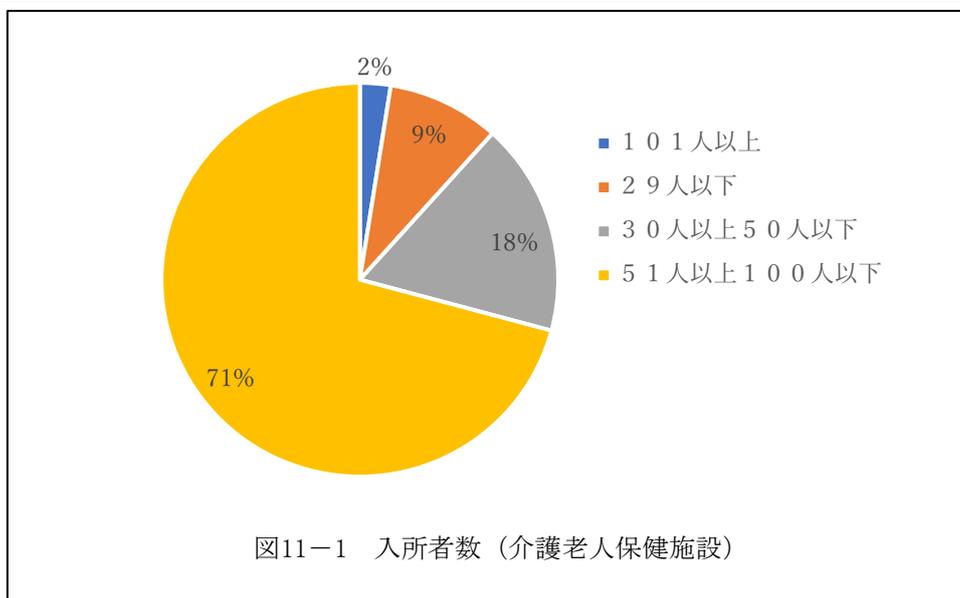


2) 施設の入所定員数

介護老人保健施設の入所定員数は「51人以上100人以下」71%、「30人以上50人以下」18%、「29人以下」9%、「101人以上」2%であった。特別養護老人ホームの入所定員数は「51人以上100人以下」34%、「30人以上50人以下」25%、「29人以下」25%、「101人以上」16%であった。

表 11 入所施設定員数

		29人以下	30人以上～ 50人以下	51人以上～ 100人以下	101人以上	合計
介護老人保健施設	人数(人)	0	11	21	3	35
	割合(%)	9	18	71	2	100
特別養護老人ホーム	人数(人)	21	21	29	14	85
	割合(%)	25	25	34	16	100



### 3) 施設の職員数

#### (1) 正規看護職員数

介護老人保健施設の正規看護職員数は「10人」が5施設で、次いで「8人」「6人」「5人」が4施設であった。特別養護老人ホームの正規職員数は、2人が20施設、3人が17施設、4人が17施設であった。

表 12-1 正規看護職員数(介護老人保健施設)

正規職員数	0	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	35
施設数	1	1	1	3	4	4	2	4	3	5	2	1	2	1	1

表 12-2 正規看護職員数(特別養護老人ホーム)

正規職員数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	15	20	不明
施設数	3	14	20	17	12	10	1	1	4	1	1	1

#### (2) 非正規職員数

介護老人保健施設の非正規看護職員数は「2人」が9施設で最も多く、次いで「4人」6施設であった。特別養護老人ホームの非正規職員は、2人が21施設で最も多く、次いで1人が20施設であった。

表 13-1 非正規看護職員数(介護老人保健施設)

非正規職員数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
施設数	4	7	9	3	6	2	2	0	1	0	1

表 13-2 非正規看護職員数(特別養護老人ホーム)

非正規職員数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
施設数	15	20	21	13	7	4	1	1	1	0	2

### 4) 看護職員の新規採用者数

#### (1) 新規採用者数(正規職員)

介護老人保健施設の正規看護職員の新規採用者数は「0人」22施設、「1人」6施設、「2人」4施設であった。特別養護老人ホームの正規看護職員の新規採用者数は、「0人」48施設、「1人」が25施設であった。

表 14-1 正規職員新規採用者数(介護老人保健施設)

正規職員新採用者数	0	1	2	3	4
施設数	22	6	4	1	2

表 14-2 正規職員新規採用者数（特別養護老人ホーム）

正規職員新規採用者数	0	1	2	3	5
施設数	48	25	8	3	1

(2) 新規採用者数(非正規職員)

介護老人保健施設の非正規看護職員の新規採用者数は「0 人」22 施設、「1 人」13 施設であった。特別養護老人ホームの非正規看護職員の新規採用者数は「0 人」52 施設、「1 人」が 23 施設であった。

表 15-1 非正規職員新規採用者数（介護老人保健施設）

非正規正規職員新規採用者数	0	1
施設数	22	13

表 15-2 非正規職員新規採用者数（特別養護老人ホーム）

非正規正規職員新規採用者数	0	1	2	3
施設数	52	23	5	5

5) 看護職員の離職者数

(1) 離職者数(正規職員)

介護老人保健施設の正規看護職員の離職者数は「0 人」24 施設、「1 人」9 施設であった。

特別養護老人ホームの正規看護職員の離職者数は「0 人」53 施設、「1 人」21 施設であった。

表 16-1 正規職員離職者数（介護老人保健施設）

正規職員離職者数	0	1	2
施設数	24	9	2

表 16-1 正規職員離職者数（特別養護老人ホーム）

正規職員離職者数	0	1	2	3	4
施設数	53	22	6	3	1

(2) 離職者数(非正規職員)

介護老人保健施設の非正規看護職員の離職者数は「0 人」28 施設、「1 人」3 施設、「2 人」3 施設であった。特別養護老人ホームの非正規看護職員の離職者数は「0 人」47 施設、「1 人」29 施設、「2 人」8 施設であった。

表 17-1 非正規職員離職者数（介護老人保健施設）

介護老人保健施設	0	1	2	3
施設数	28	3	3	1

表 17-2 非正規職員離職者数（特別養護老人ホーム）

特別養護老人ホーム	0	1	2	6
施設数	47	29	8	1

6) 看護職員が足りているか

介護老人保健施設の看護職員の人数は「足りている」14%、「不足している」52%、「どちらとも言えない」31%であった。特別養護老人ホームの看護職員の人数は「足りている」25%、「不足している」55%、「どちらとも言えない」19%であった。

表 18-1 看護職員が足りているか（介護老人保健施設）

	どちらとも言えない	足りている	不足している	無回答	合計
人数(人)	11	5	18	1	35
割合(%)	31	14	52	3	100

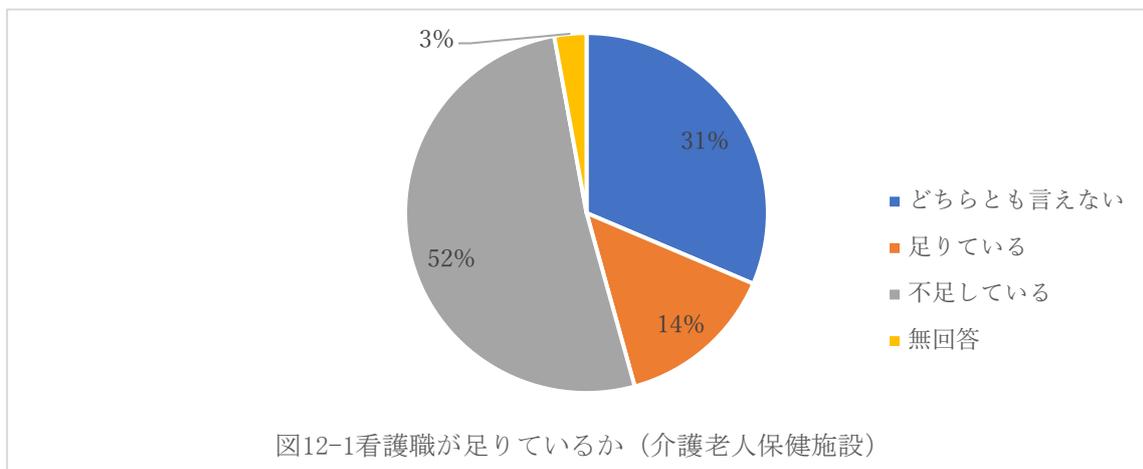
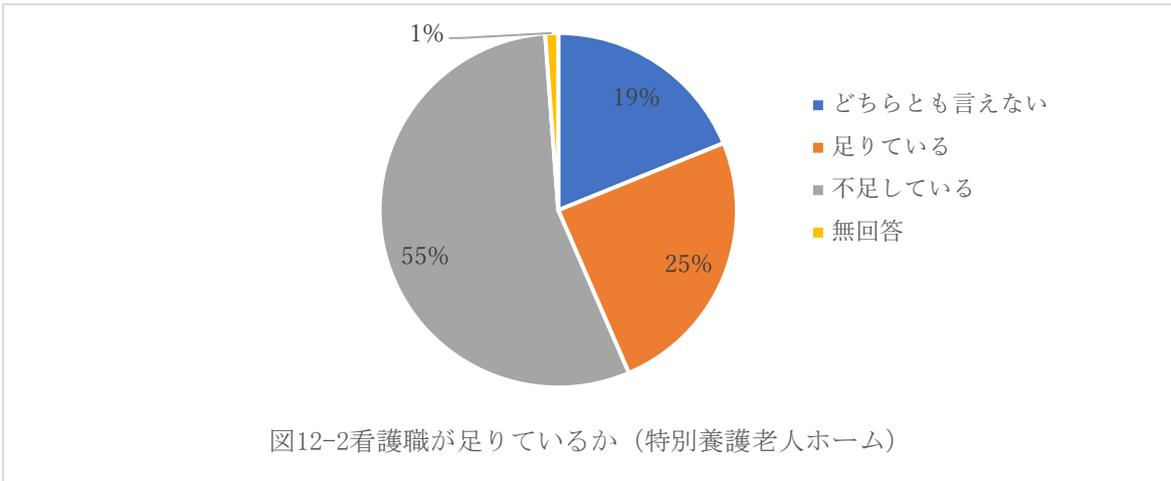


表 18-2 看護職員が足りているか（特別養護老人ホーム）

	どちらとも言えない	足りている	不足している	無回答	合計
人数(人)	16	21	47	1	85
割合(%)	19	25	55	1	100



### 3. 待遇について

#### 1) 給与

##### (1) 1ヶ月の総支給額

介護老人保健施設の一ヶ月の総支給額は、30万円以上40万円未満が16人、20万円以上30万円未満11人でした。特別養護老人ホームの一ヶ月の総支給額は、30万円以上40万円未満が17人、20万円以上30万円未満17人でした。

表 19-1 1ヶ月の総支給額（介護老人保健施設）

	20万円未満	20万円以上 30万円未満	30万円以上 40万円未満	40万円以上 50万円未満	50万円以上	無回答	合計
人数(人)	0	11	16	1	1	6	35
割合(%)	0.0	31.4	45.7	2.9	2.9	17.1	100.0

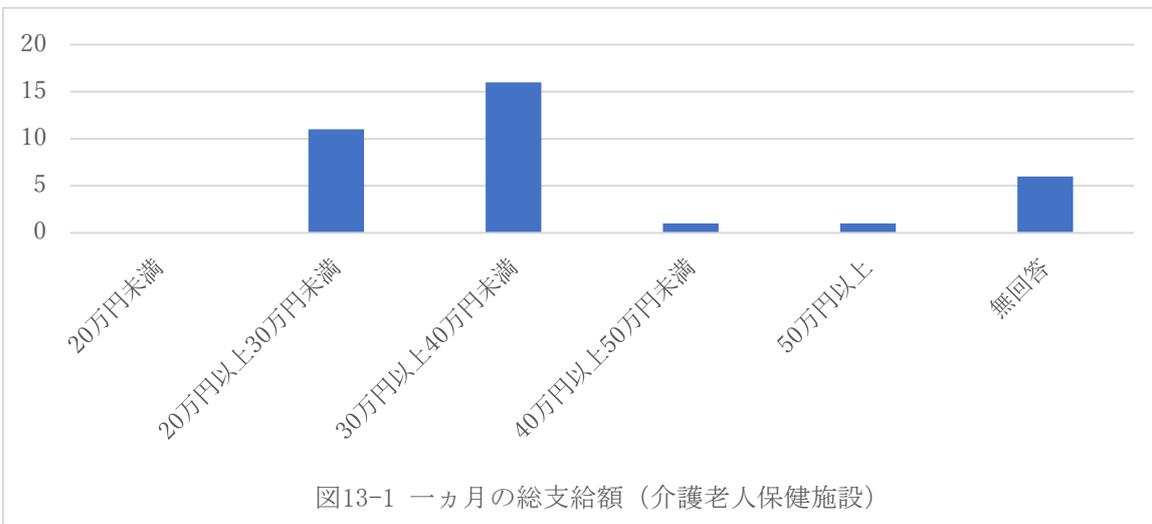
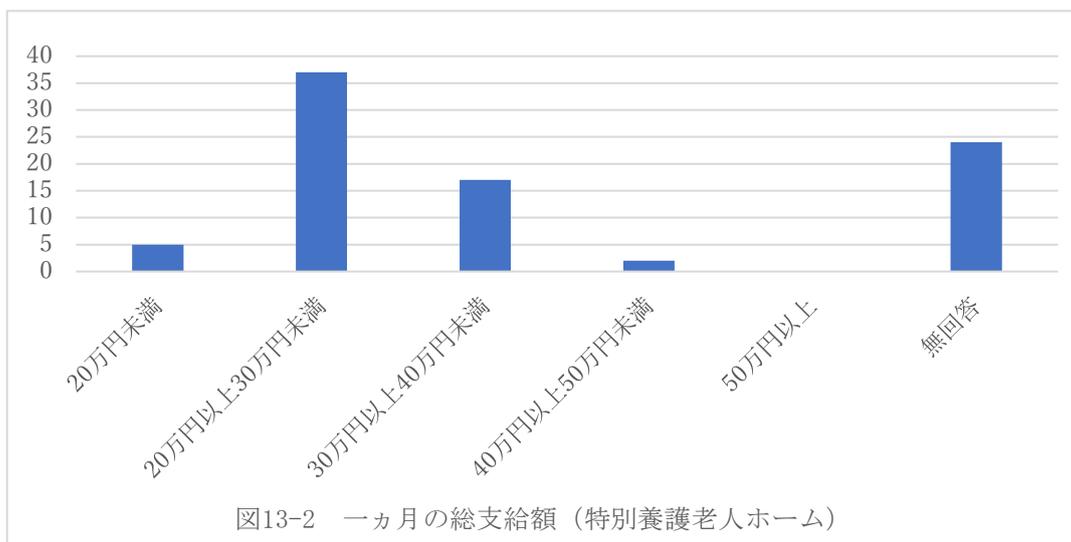


表 19-2 1ヶ月の総支給額（特別養護老人ホーム）

	20万円未満	20万円以上 30万円未満	30万円以上 40万円未満	40万円以上 50万円未満	50万円以上	無回答	合計
人数(人)	5	37	17	2	0	24	85
割合(%)	5.9	43.5	20.0	2.4	0.0	28.2	100.0



2) 夜勤手当・オンコール手当

(1) 1回あたりの夜勤手当

介護老人保健施設の夜勤手当は5千円以上1万円未満が14人、1万円以上1万5千円未満14人でした。特別養護老人ホームの夜勤手当は5千円以上1万円未満が4人、1万円以上1万5千円未満2人、5千円未満3人、手当なしが12人でした。

表 20-1 1回あたりの夜勤手当（介護老人保健施設）

	手当なし	5千円未満	5千円以上 1万円未満	1万円以上 1万5千円 未満	1万5千円以上	無回答	合計
人数(人)	0	0	14	14	1	6	35
割合(%)	0.0	0.0	40.0	40.0	2.9	17.1	100.0

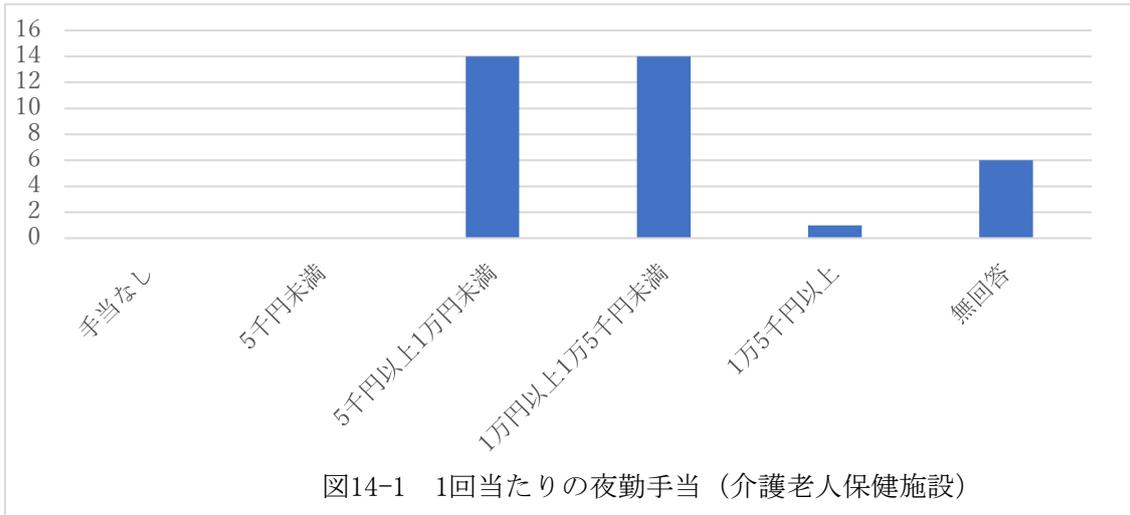
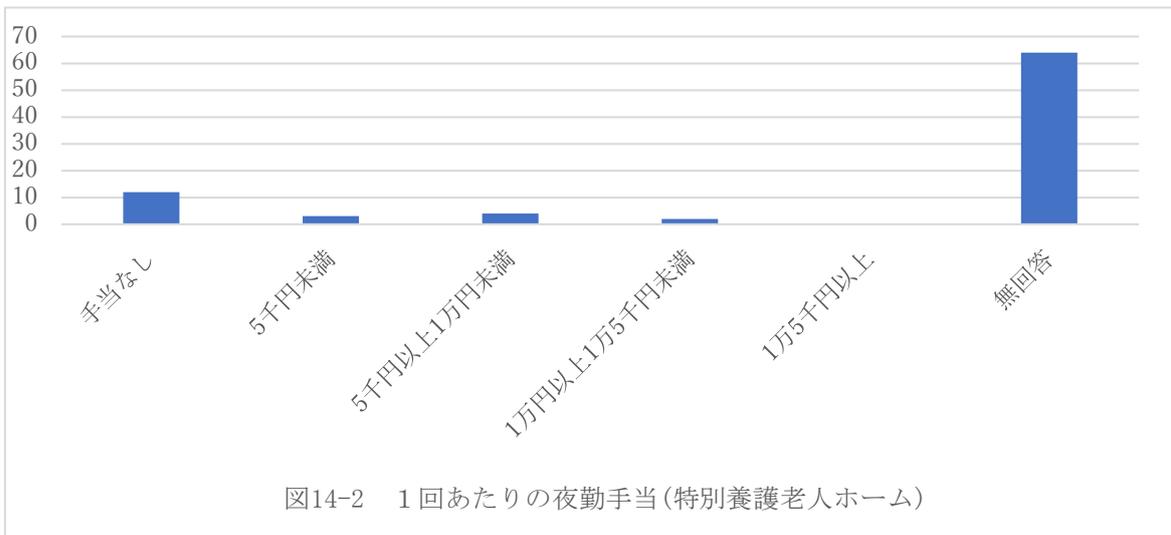


表 20-2 1回あたりの夜勤手当 (特別養護老人ホーム)

	手当なし	5千円未満	5千円以上 1万円未満	1万円以上 1万5千円未満	1万5千円 以上	無回答	合計
人数(人)	12	3	4	2	0	64	85
割合(%)	14.1	3.5	4.7	2.4	0.0	75.3	100.0



(2)1回あたりのオンコール手当

介護老人保健施設のオンコール手当は、手当なしが10人、1000円以上5000円未満が3人でした。特別養護老人ホームのオンコール手当は、1000円以上5000円未満が38人、1万円以上1万5千円未満が11人でした。

表 21-1 1回あたりのオンコール手当（介護老人保健施設）

	手当なし	500円未満	500円以上 1000円未満	1000円以上 5000円未満	5000円以上 10000円未満	10000円以上	無回答	合計
施設数	10	0	1	3	0	0	21	35
割合	28.6	0.0	2.9	8.5	0.0	0.0	60.0	100.0

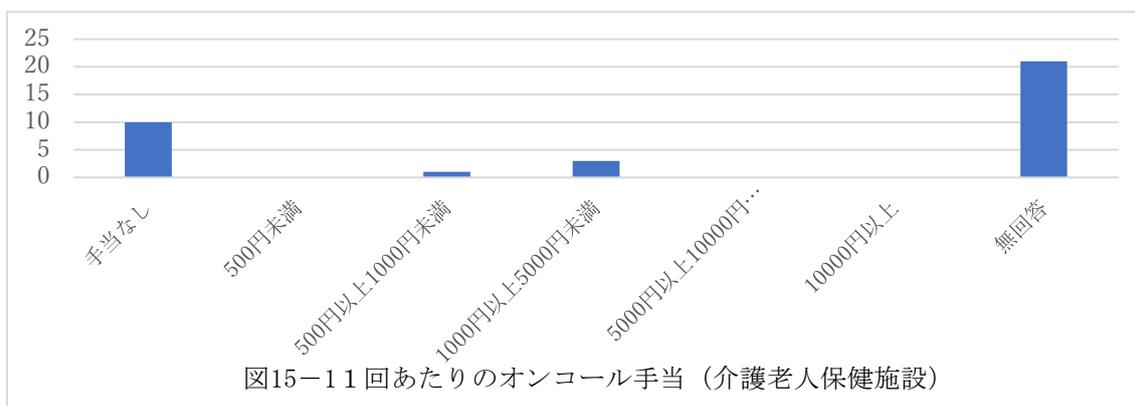
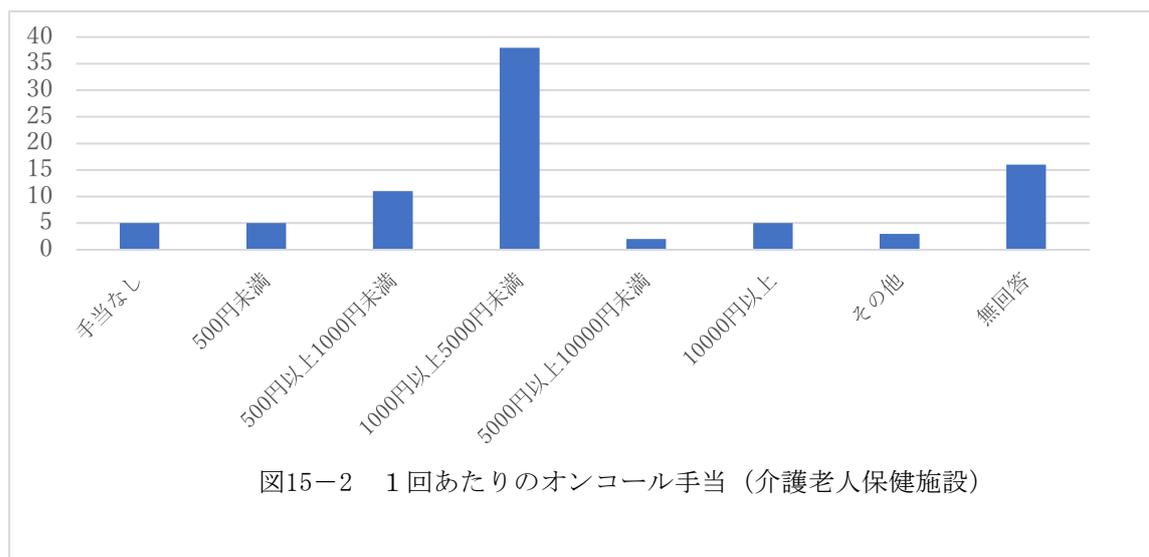


表 21-2 1回あたりのオンコール手当（特別養護老人ホーム）

	手当なし	500円未満	500円以上 1000円未満	1000円以上 5000円未満	5000円以上 10000円未満	10000円以上	その他	無回答	合計
施設数	5	5	11	38	2	5	3	16	85
割合	5.9	5.9	12.9	44.7	2.4	5.9	3.5	18.8	100.0



(3) 自分の給与が仕事に見合った金額と感じるか

介護老人保健施設の給与について「十分もらっている」6%、「こんなものと思う」31%、「少ないと思う」63%であった。「十分もらっている」2%、「こんなものと思う」48%、「少ないと思う」50%であった。

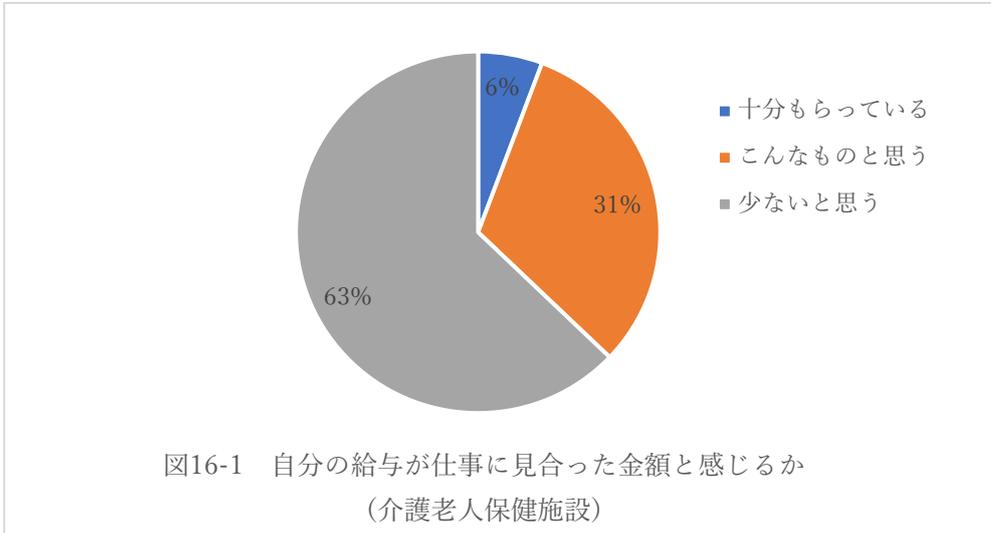


図16-1 自分の給与が仕事に見合った金額と感じるか  
(介護老人保健施設)

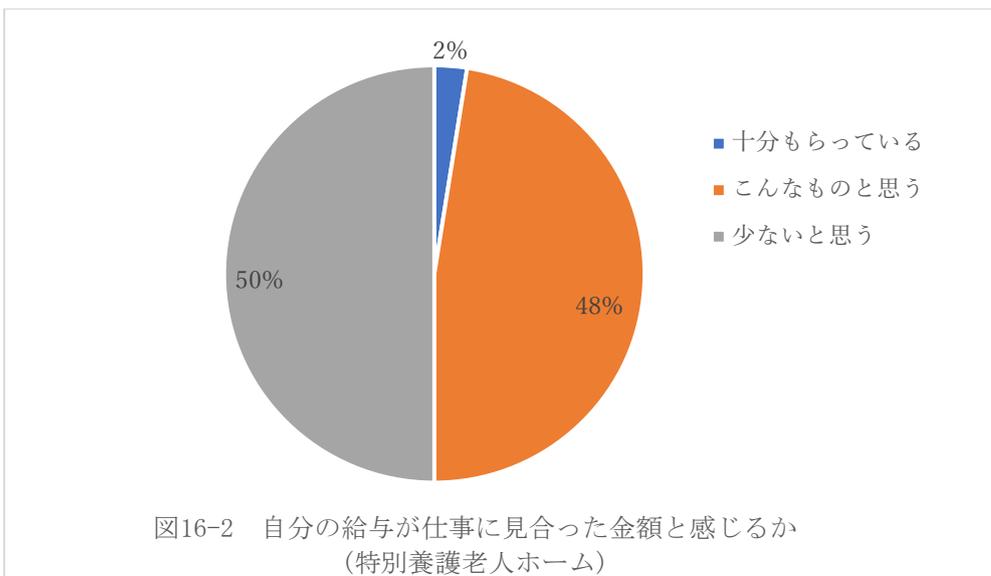


図16-2 自分の給与が仕事に見合った金額と感じるか  
(特別養護老人ホーム)

(4) 自分の給与が少ないと思う理由

- ・1人で3人分の仕事をこなしているように思うため
- ・管理職になってから、勤務形態は変わらないのに、残業手当はつかない。職場の滞在時間は大幅に増加している
- ・病院勤務者との比較
- ・受診対応、検査、CV 多い。急変対応 オンコール手当ないのに夜たくさんコールあり。薬づくり、処置、点滴、健康管理 多忙
- ・業務が多岐に渡るため

- ・オンコールは1人につき80人以上対応しないとイケない。日中も2〜3人体制で急変時の対応なども手いっぱい。責任が全て看護師になる。
- ・業務量と比例していない
- ・少ないと思うが、看護師としての経験年数を考えるとこんなものと思う
- ・管理職であるため、残業代が支給されない
- ・仕事内容に見合っていない
- ・介護業務が多い
- ・Nsとしての責任や施設介護職員より給与、年収も低い
- ・病院看護と同じかそれ以上の知識が必要なのに・・・
- ・業務量が多い
- ・負担は大きいのにオンコールが安い
- ・オンコール手当を出してほしい。
- ・業務に見合っていない
- ・夜勤手当が少ない
- ・看護管理者不在で管理者同様の仕事がある。
- ・Ns1名のため、常時拘束あり
- ・施設で働いていたらいい方かもしれないが、医師が常駐していないので急変時の判断と責任の重さを感じる
- ・少人数で働いているが、重度化した入居者が多い
- ・病院に比べ、看護師としての責任度が高い
- ・オンコール手当なし
- ・以前は夜勤人数が5人。今は4人で行っているため
- ・仕事内容が多い。責任感が求められる
- ・多忙 仕事内容が多すぎる
- ・多忙、休日出勤
- ・入職してから全く給与が上がらない。基本給は14万なのでボーナスも少ない
- ・オンコール 16時間拘束
- ・同期と比べて
- ・看護管理業務に加え、事務雑用その他多忙すぎる
- ・ボーナスが少ない
- ・残業が多い、介護業務もしなければいけないので忙しすぎる
- ・基本給が少ない、昇給がない
- ・多忙
- ・仕事量、責任感に対し
- ・管理職でないのに管理職のような仕事をしているため
- ・負担が大きい
- ・夜勤を月8回程度行っている

- ・業務が多い
- ・責任が重い
- ・看護業務のみならず、介護、事務等すべての業務に関するを行っている。
- ・施設と病院職とは違う
- ・管理業務と看護行為と他、業務が多すぎる
- ・20代の頃より少ない。娘(保育士)より少ない。
- ・業務量が多く残業が多い
- ・嘱託
- ・残業することがほとんどであるが、管理職手当があるため、残業代はつかない。現場のNs業務をするため、残業するようになる。雑務も多い。
- ・業務多忙

#### 4. 看護職員が行っている業務

##### 1) 食事に関するケア(複数回答)

表 22-1 食事に関するケア(介護老人保健施設)

	人数
経腸栄養の管理	33
食事介助	31
中心静脈栄養カテーテルの管理	1
中心静脈栄養ポート	0

表 22-2 食事に関するケア(特別養護老人ホーム)

	人数
経腸栄養の管理	11
食事介助	71
中心静脈栄養カテーテルの管理	2
中心静脈栄養ポート	0

##### 2) 排泄に関するケア(複数回答)

表 23-1 排泄に関するケア(介護老人保健施設)

	人数
膀胱瘻	0
ストーマケア	0
トイレ介助	33
おむつ交換	33
導尿	2
尿道留置カテーテル交換	2
浣腸	38
摘便	2

表 23-2 排泄に関するケア(特別養護老人ホーム)

	人数
膀胱瘻	0
ストーマケア	3
トイレ介助	47
おむつ交換	44
導尿	10
尿道留置カテーテル交換	26
浣腸	42
摘便	39

##### 3) 清潔に関するケア(複数回答)

表 24-1 清潔に関するケア(介護老人保健施設)

	人数
洗髪	3
入浴介助	8
洗面介助	13
手浴・足浴	10
清拭	9
更衣介助	8
陰部洗浄	13
口腔ケア	14
爪切り	8

表 24-2 清潔に関するケア(特別養護老人ホーム)

	人数
洗髪	5
入浴介助	25
洗面介助	25
手浴・足浴	17
清拭	30
更衣介助	17
陰部洗浄	40
口腔ケア	45
爪切り	50

4) 環境整備に関すること(複数回答)

表 25-1 環境整備に関すること (介護老人保健施設)

	人数
シーツ交換・ベッドメイキング	24
環境整備	32
医療安全	9
感染対策	9

表 25-2 環境整備に関すること (特別養護老人ホーム)

	人数
シーツ交換・ベッドメイキング	20
環境整備	35
医療安全	57
感染対策	26

5) 運動に関するケア(複数回答)

表 26-1 運動に関するケア (介護老人保健施設)

	人数
レクリエーション企画	13
送迎	1
リハビリテーション	18
移動・移乗介助	34

表 26-2 運動に関するケア (特別養護老人ホーム)

	人数
レクリエーション企画	33
送迎	7
リハビリテーション	38
移動・移乗介助	51

6) 医療行為に関するケア(複数回答)

表 27-1 医療行為に関するケア(介護老人保健施設)

	人数
PEG 交換時の介助	0
連携病院からの往診による実施	0
7 バルン交換	0
ポートフラッシュ	0
血糖測定	0
導尿	0
留置カテーテル交換	0
喀痰吸引	0
経管栄養	0
介護職員の医療的ケアの実施研修	0
胃ろうボタン交換介助	0
人工呼吸器管理	1
吸引	0
気管切開管理	0
調剤	22
心電図検査	21
酸素吸入	32
与薬	22
採血	15
注射・点滴・インスリン	29
創処置	33

表 27-2 医療行為に関するケア(特別養護老人ホーム)

	人数
PEG 交換時の介助	1
連携病院からの往診による実施	1
バルン交換	1
ポートフラッシュ	1
血糖測定	1
導尿	1
留置カテーテル交換	1
喀痰吸引	1
経管栄養	1
介護職員の医療的ケアの実施研修	1
胃ろうボタン交換介助	1
人工呼吸器管理	2
吸引	1
気管切開管理	3
調剤	30
心電図検査	23
酸素吸入	68
与薬	71
採血	19
注射・点滴・インスリン	42
創処置	82

7) 観察・アセスメントについて

表 28-1 観察・アセスメント（介護老人保健施設）

	人数
バイタルサインの測定	35
急変時対応	34
症状観察・アセスメント	34

表 28-2 観察・アセスメント（特別養護老人ホーム）

	人数
バイタルサインの測定	79
急変時対応	84
症状観察・アセスメント	85

8) 終末期に関するケア

表 29-1 終末期に関するケア（介護老人保健施設）

	人数
疼痛ケア	18
家族ケア	6
エンゼルケア	28
看取り	27

表 29-2 終末期に関するケア（特別養護老人ホーム）

	人数
疼痛ケア	43
家族ケア	19
エンゼルケア	67
看取り	69

9) 記録・管理に関すること

表 30-1 記録に関すること（介護老人保健施設）

	人数
ケアプラン立案・評価	17
入退所手続き	8
サービス担当者会議	7
申し送り・ チームカンファレンス	35
記録	35

表 30-2 記録に関すること（特別養護老人ホーム）

	人数
ケアプラン立案・評価	69
入退所手続き	14
サービス担当者会議	22
申し送り・ チームカンファレンス	85
記録	82

## 10) 他職種との連携

表 31-1 他職種との連携(介護老人保健施設)

	人数
医師との連携・相談	35
病院受診付き添い	32

表 31-2 他職種との連携(特別養護老人ホーム)

	人数
医師との連携・相談	85
病院受診付き添い	82

## 11) 指導・教育

表 32-1 指導・教育(介護老人保健施設)

	人数
入退所指導	33
実習生指導	17
職員指導	33
家族連絡・相談・指導	33
医療安全	17
感染対策	34

表 32-2 指導・教育(特別養護老人ホーム)

	人数
入退所指導	26
実習生指導	18
職員指導	32
家族連絡・相談・指導	33
医療安全	18
感染対策	21

## 12) その他、行っている業務

- ・各種委員会の主催、季節毎の各種ワクチン接種、健康診断
- ・利用者、家族、スタッフ、全ての事で教育、指導が必要
- ・委員会業務
- ・Dr 回診 4日/w 都度、IC、臨時処方など
- ・ストーマ
- ・胃瘻 吸引 予防接種
- ・健康診断対応、介助、ワクチン接種、入浴や病者の検温、体重測定
- ・施設内での研修の講師、管理者の定期会議への出席、委員会への出席
- ・健診にて年に1回、V.X-Pにて嘱託医の診療所で撮影
- ・所内研修
- ・ライフシステムの入力作業
- ・介護スタッフと一緒に業務にあたる。安楽、保潔等について出来なければ毎回指導。また、予測と判断アセスメント能力評価する等
- ・物品の在庫管理や注文、職員の勤務調整、出勤簿・届出の管理
- ・安全衛生、研修等の委員会活動

## 5. 現在の業務で不安に感じること

### 1) 現在の業務で不安に感じることもあるか

介護老人保健施設も特別養護老人ホームも現在の業務で不安に感じることもあるかについて、「はい」が81% 「いいえ」が19%であった。

表 33-1 現在の業務で不安に感じることもあるか（介護老人保健施設）

	不安を感じる ことがある	不安を感じる ことはない	合計
人数(人)	29	6	35
割合(%)	81	19	100

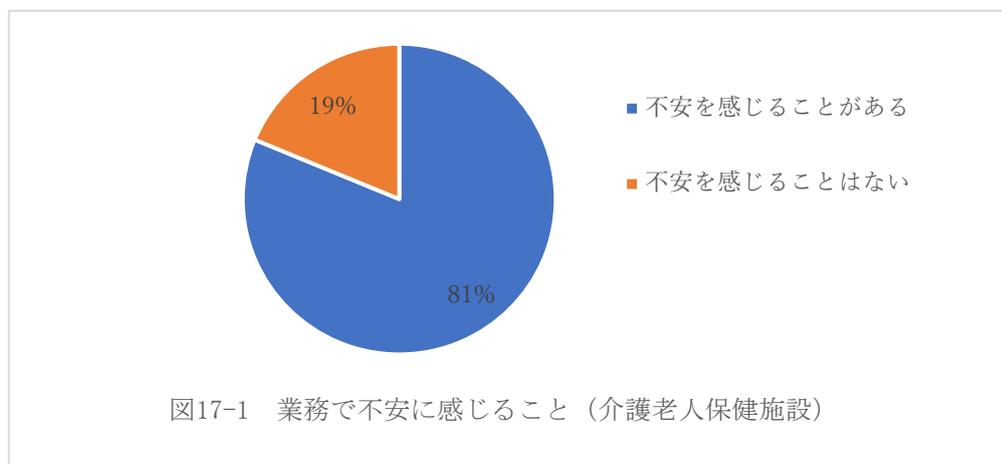
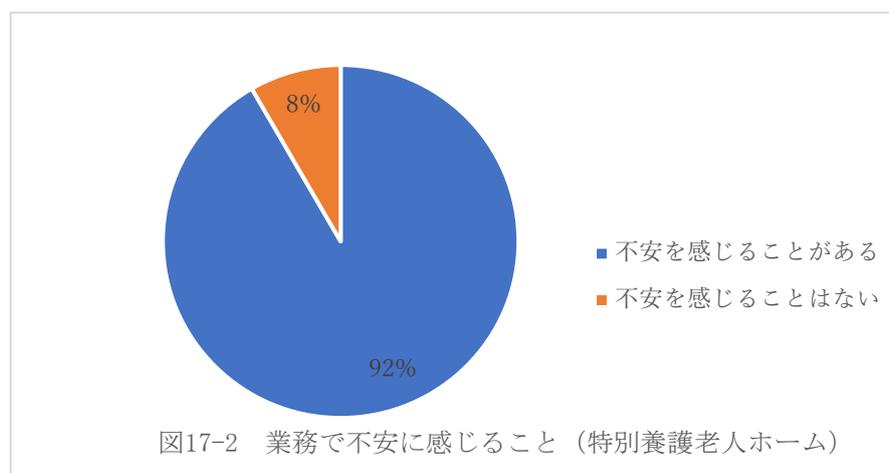


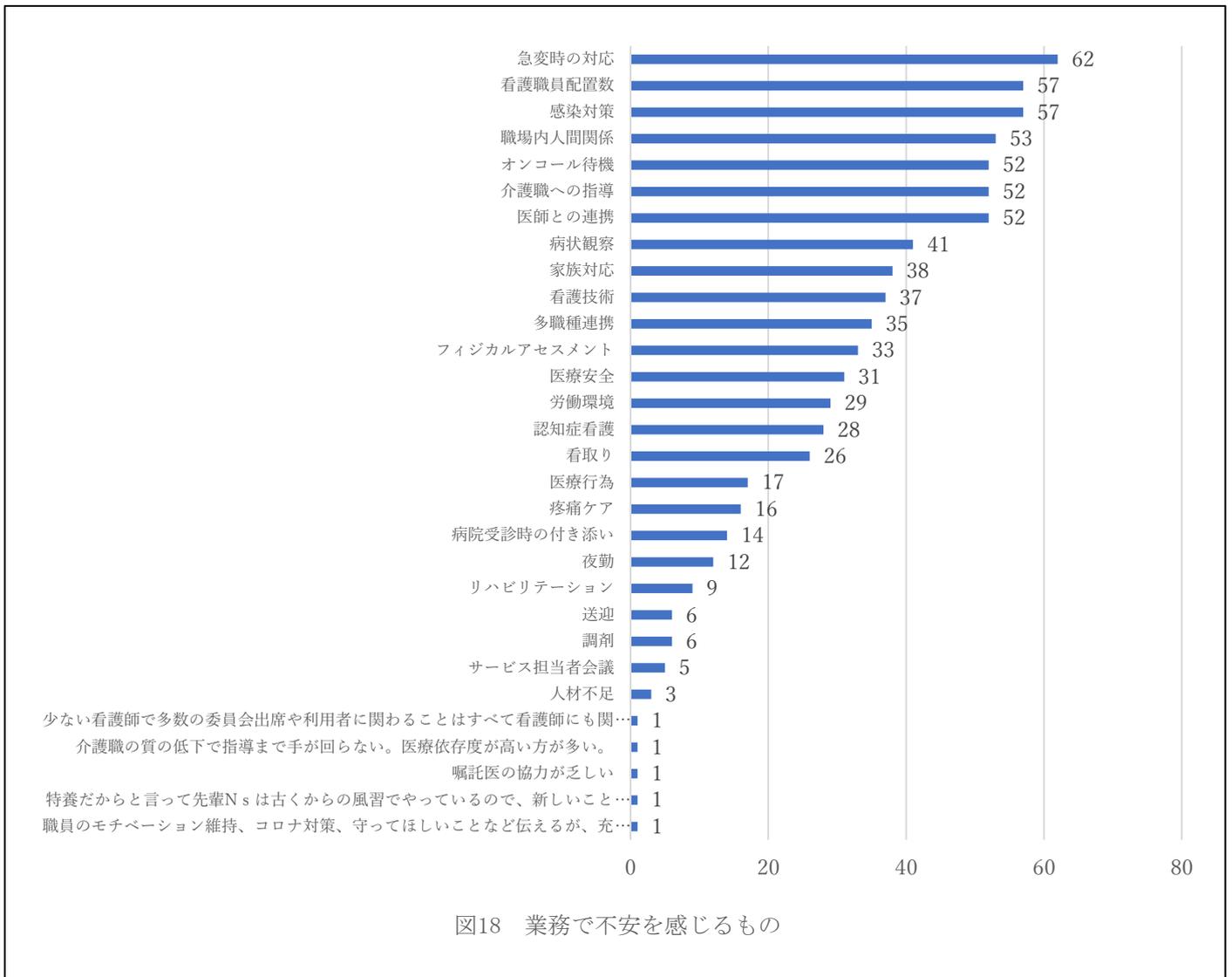
表 33-2 現在の業務で不安に感じることもあるか（特別養護老人ホーム）

	不安を感じる ことがある	不安を感じる ことはない	合計
人数(人)	77	7	84
割合(%)	92	8	100



2) 不安を感じる具体的な業務(複数回答)

「急変時の対応」62件、「看護職員配置数」57件、「感染対策」57件、「職場内人間関係」53件、「オンコール待機」「介護職への指導」「医師との連携」52件であった。



3) 「医療行為」に不安があると回答した人が、具体的に何が不安か

- ・手技 フォロー体制 知識
- ・できることとできないことがある
- ・看護師により知識、技術の相違
- ・適切な技術、知識で行えているか
- ・注射等
- ・点滴
- ・点滴管理。日中のみ点滴施行ですが、安全面で不安あり。

- ・その手技でいいのか？ちゃんと出来ているかと言う不安
- ・新しい医療技術の勉強不足
- ・統一して全体を見れる Ns がない

4)「労働環境」に不安があると回答した人が、具体的に何が不安か

- ・夜間 看護師一人は、非常に不安
- ・オンコール多数あり、夜間看取りした方で次の日 日勤
- ・介護職員も不足しているため看護と介護の業務が併用される
- ・介護職員とのかかわり方
- ・50代あるいは、定年後の嘱託で勤務している看護師ばかりで若手あるいは働き盛りの Ns は病院に勤めてしまう
- ・スタッフ不足で1人で認知の激しい利用者を見るが多いこと
- ・残業が多く、始業前の出勤が多くある。
- ・長時間労働、人員不足、人間関係
- ・介護職も看護師も不足しており、毎日が多忙であるため気持ちに余裕がない。

6. 研修体制

1)施設の職員研修体制の整備状況

介護老人保健施設では、「整っている」が 59%、「整っていない」が 41.0%であった。「特別養護老人ホーム」では、「整っている」「整っていない」とも 50%であった。

表 34-1 施設の職員研修体制の整備状況（老人保健施設）

	整っている	整っていない	合計
人数(人)	20	14	34
割合(%)	59	41	100

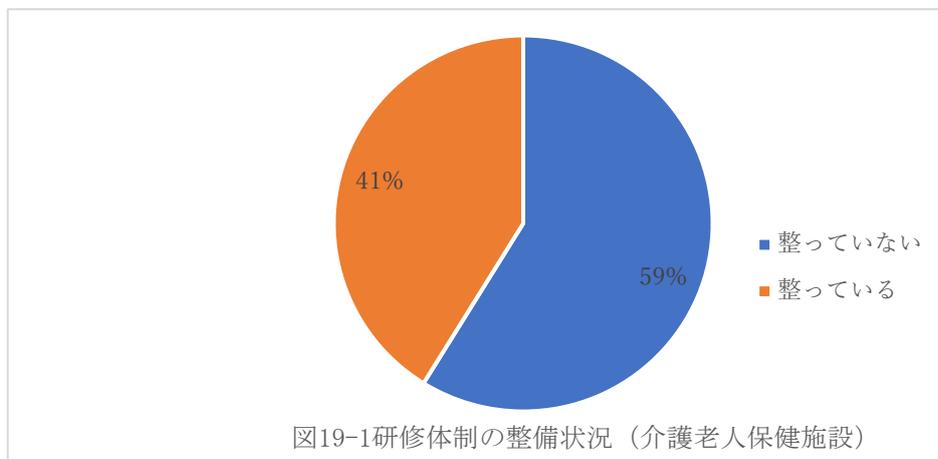
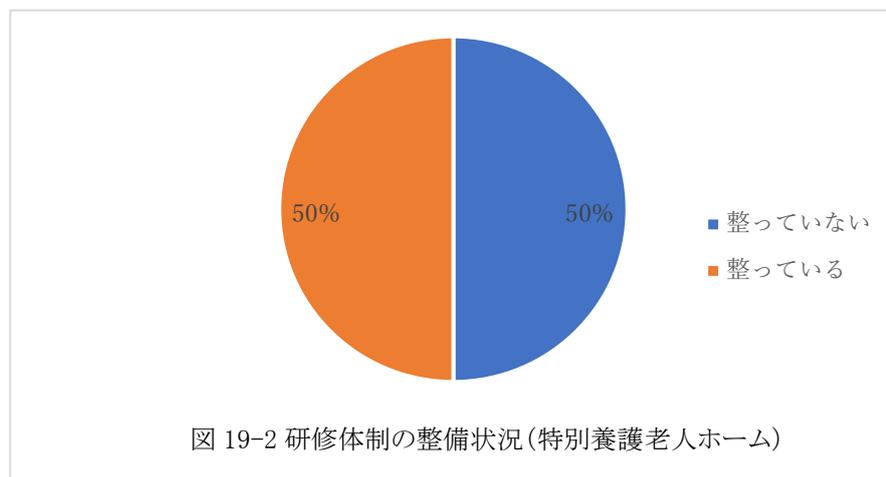


表 34-2 施設の職員研修体制の整備状況（特別養護老人ホーム）

	整っている	整っていない	合計
人数(人)	42	42	84
割合(%)	50	50	100



2) 看護職対象の施設外研修への参加状況

介護老人保健施設では、「参加したことはない」が 56%、研修に「参加したことがある」が 44%であった。特別養護老人ホームでは、「参加したことはない」が 66%、研修に「参加したことがある」が 34%であった。

表 35-1 看護職対象の施設外研修への参加状況(介護老人保健施設)

	参加したことがある	参加したことはない	合計
人数(人)	15	19	34
割合(%)	44	56	100

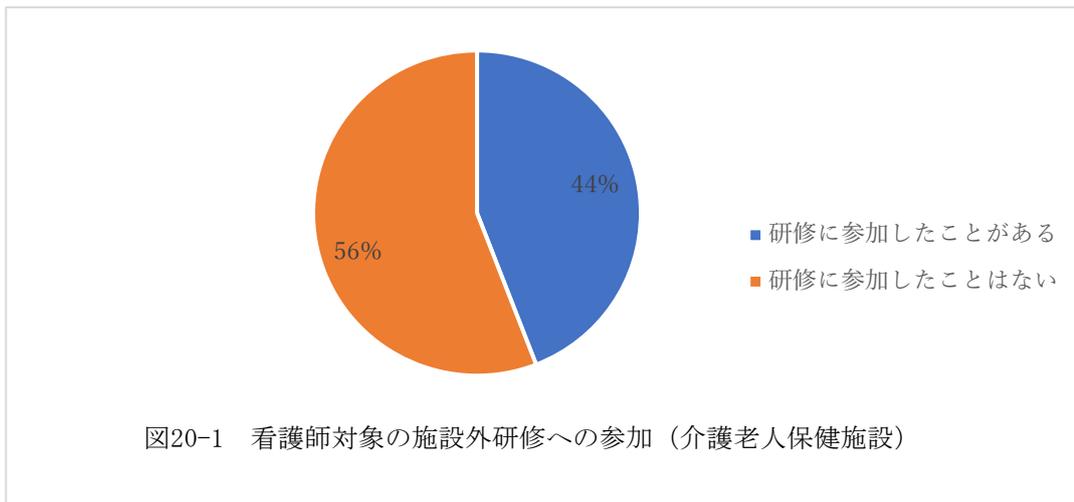


図20-1 看護師対象の施設外研修への参加（介護老人保健施設）

表 35-2 看護職対象の施設外研修への参加状況（特別養護老人ホーム）

	参加したことがある	参加したことはない	合計
人数(人)	28	54	82
割合(%)	34	66	100

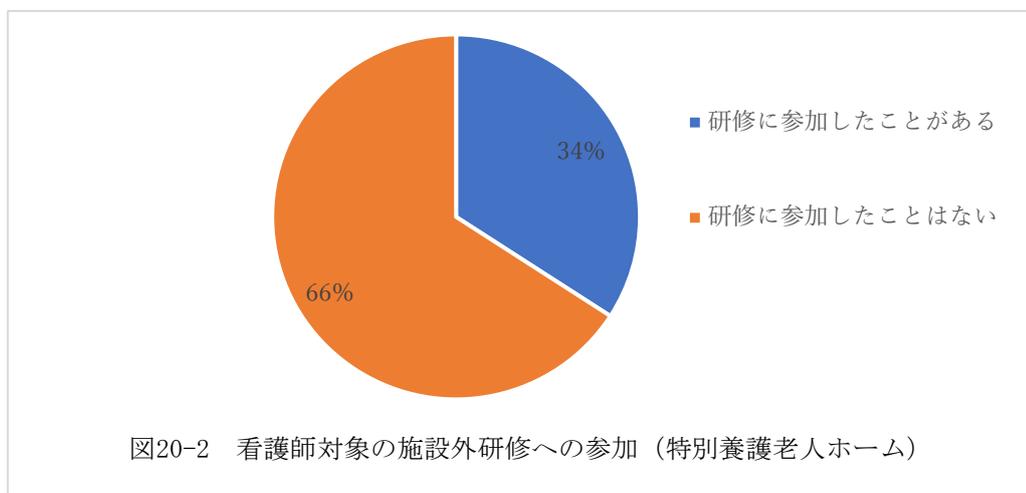


図20-2 看護師対象の施設外研修への参加（特別養護老人ホーム）

3) 看護職対象の施設外研修へ参加したことがない理由

- ・仕事が忙しい(32)
- ・看護職の人数が少ない(30)
- ・研修の情報が入らない(23)
- ・施設看護師対象の研修がない(5)
- ・興味がある研修がない(8)
- ・コロナのため(5)

- ・研修費が高い(4)
- ・上司の理解がない(2)
- ・施設内研修が充実している(2)
- ・入職したばかりだから(1)
- ・コロナで集合研修が減少(1)
- ・外部研修が少ない(1)

#### 4) 何の研修に参加したか

参加した研修内容では、日々の業務につながる内容(口腔ケア・褥瘡処置・吸引・看取り)、コロナ禍での 感染対策に関する研修、災害関連、医療連携関連、認知症加算研修等の参加が多かった。

- ・感染対策、口腔ケア対策
- ・看護協会の研修
- ・リスクマネジメント、喀痰吸引指導者研修、感染症対策について、介護認定調査員 オンライン研修が多い
- ・医療的ケア教員講習会
- ・災害看護
- ・災害支援ナースフォローアップ研修
- ・コロナに関して
- ・吸引指導者研修、コロナ関連の研修数回
- ・喀痰吸引指導者研修
- ・感染対策研修
- ・感染対策、看取りについてなど全てZoomで
- ・コロナに関する研修
- ・褥瘡処置、認知症、吸引等指導者講習、感染症対策
- ・コロナ対策関連(オンライン研修)
- ・「看取り期」に望まれる実際のケア、「病院ではない」施設、看護師の専門性と具体的な働き方、感染対策エキスパート養成研修
- ・看護連盟、職能の研修会、BCP の研修
- ・コロナ感染研修
- ・虐待について
- ・LIFE
- ・感染
- ・看取り(看護協会主催)
- ・喀痰吸引指導者研修とそのフォローアップ研修
- ・参加手続きを行ったが、コロナ感染拡大で中止となりました。
- ・看護協会の研修

- ・褥瘡
- ・看取り、感染対策
- ・医療連携
- ・コロナ感染対策(オンライン)
- ・コロナ感染対策
- ・人権擁護
- ・感染症予防対策(コロナ関係)
- ・新型コロナウイルス感染症対策
- ・認知症に関する研修、医療事故に関する研修
- ・吸引指導者資格の取得、岡山県初のスキルアップ系の研修
- ・高齢者虐待の基礎講座
- ・地区で医療介護について勉強する会

#### 5) オンライン研修受講体制

介護老人保健施設では、オンライン研修の「体制が整っている」82%、「整っていない」18%であった。特別養護老人ホームでは、オンライン研修の「体制が整っている」82%、「整っていない」18%であった。

表 36-1 オンライン研修受講体制（介護老人保健施設）

	受講体制が整っている	受講体制が整っていない	合計
人数(人)	27	6	33
割合(%)	82	18	100

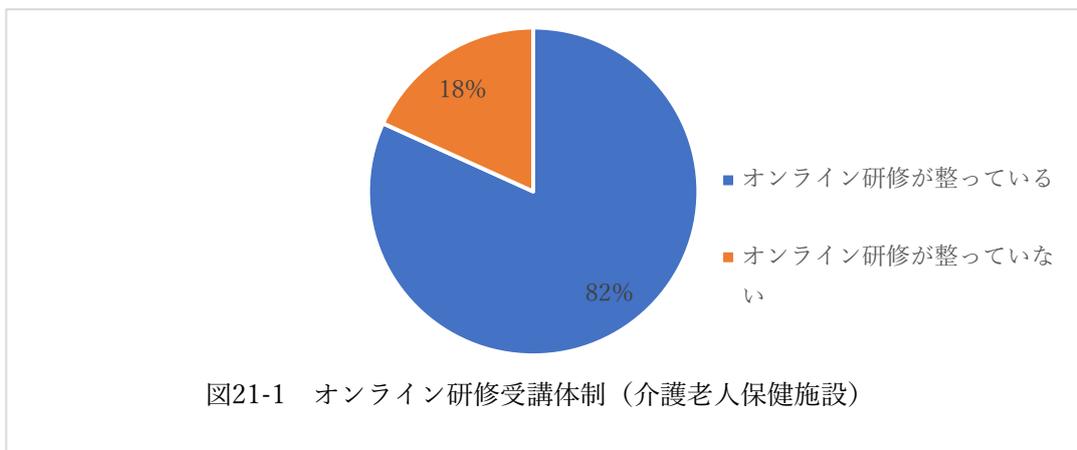


表 36-2 オンライン研修受講体制（特別養護老人ホーム）

	受講体制が整っている	受講体制が整っていない	合計
人数(人)	68	15	83
割合(%)	82	18	100

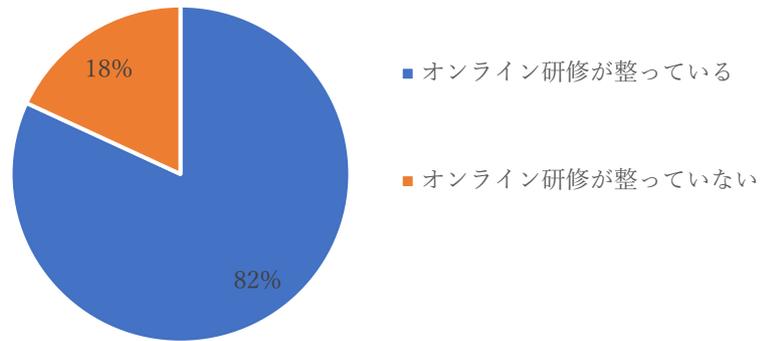


図21-2 オンライン研修受講体制（特別養護老人ホーム）

6) オンライン研修であれば院外研修も参加できるか

介護老人保健施設では、オンライン研修であれば「参加できる」が 56%、「上司の理解があれば参加できる」17%、「仕事では時間がない」18%であった。特別養護老人保健施設では、オンライン研修であれば「参加できる」が 50%、「上司の理解があれば参加できる」13%、「仕事では時間がない」15%であった。

表 37-1 オンライン研修であれば院外研修も参加できるか（介護老人保健施設）

	参加できる	上司の理解があれば参加できる	仕事では時間がない	仕事では参加できない	合計
人数(人)	19	6	6	3	85
割合(%)	56	17	18	9	100

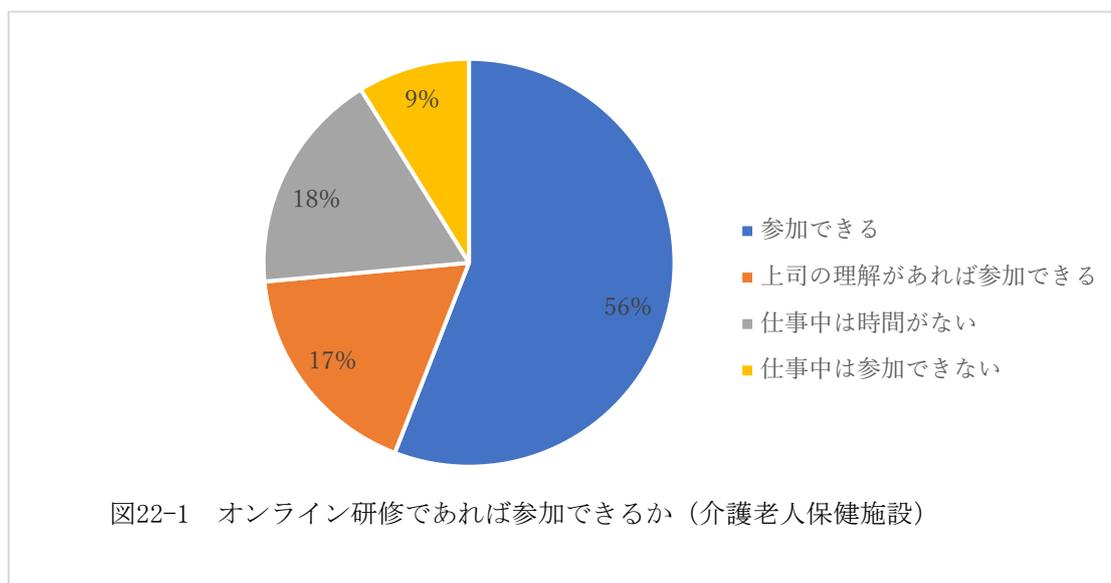
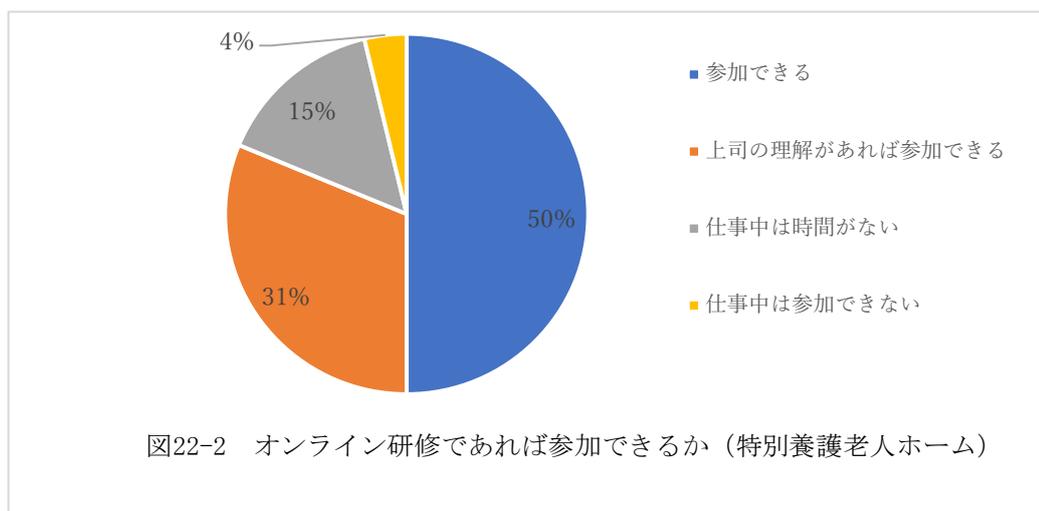


表 37-2 オンライン研修であれば院外研修も参加できるか（特別養護老人ホーム）

	参加できる	上司の理解があれば参加できる	仕事中は時間がない	仕事に参加できない	合計
人数(人)	40	25	12	3	80
割合(%)	50	31	15	4	100



7) 看護協会の研修に参加したことがあるか

介護老人保健施設では、看護協会の研修へ現在の職場で参加したことがあるが 49%、以前の職場で参加したことがある 36%であった。特別養護老人ホームでは、看護協会の研修へ現在の職場で参加したことがあるが 49%、以前の職場で参加したことがある 35%であった。

表 38-1 看護協会の研修に参加したことがあるか（介護老人保健施設）

	以前の職場で参加した	現在の職場で参加した	参加したことがない	合計
人数(人)	12	16	5	33
割合(%)	36	49	15	100

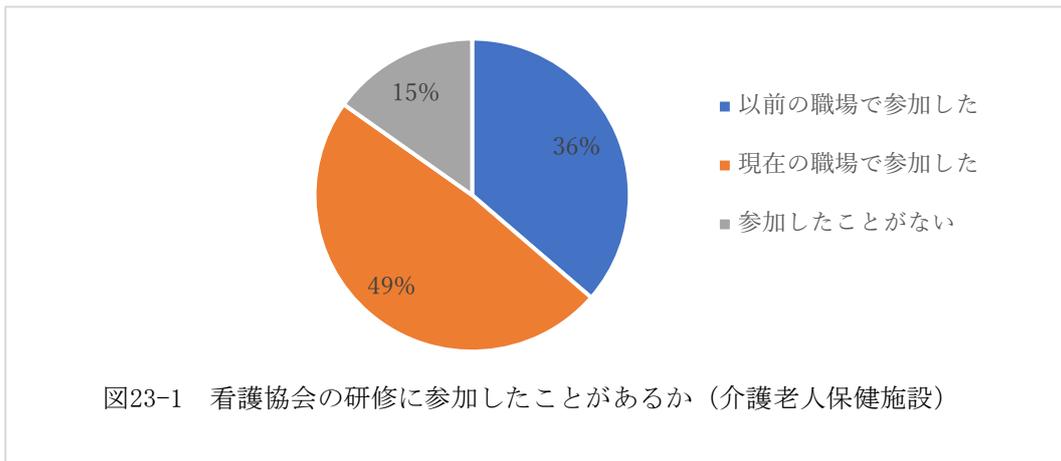
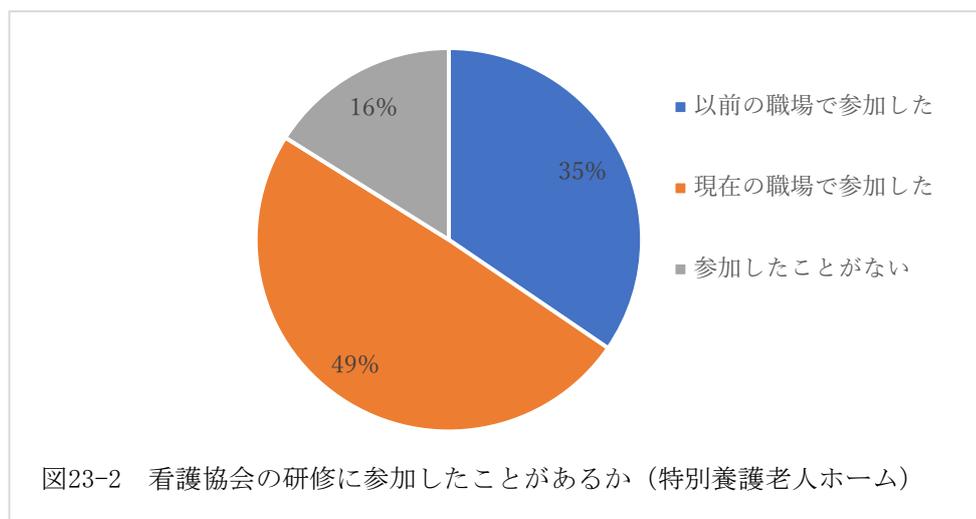


表 38-2 看護協会の研修に参加したことがあるか（特別養護老人ホーム）

	以前の職場 で参加した	現在の職場 で参加した	参加したこ とがない	合計
人数(人)	28	40	13	81
割合(%)	35	49	16	100



## 7. アンケートについての意見等の自由記載について

### (1) 研修について

#### ・オンライン研修・オンデマンド配信関連について

初めはオンライン研修に対して自分自身がわかるか理解できるかどうか・・・等不安でしたが、ここ最近では、オンライン研修でも集中して学ぶことができるようになった。これはこれですばらしい事だが、聴覚に傾いた研修ばかりだと、実感。臭覚、触覚等の間隔が低くなるのではないかと思ってしまう人間のさまざまな能力にアタックできる研修をしたいし、学んでみたい。

・オンラインなど、自分の都合にあわせてみる事ができるものがあるがたい。何回も見直せるとありがたい。

・Zoom などオンライン研修を増やしてほしいです。

オンラインだと携帯で自宅で受けるようになる。職場はPC がつながっていても仕事に使うので1 日中勉強に私が独占できない。自宅では休日を利用するが、どうしても家事をするようになるので1 日中付き合うことができない。(家族がいるから声をかけられてしまう)

現状においては、研修センターに足を運んで受講することが困難ですので、オンデマンド配信のような形で一定の期間中であればいつでもオンラインで見れる研修を増やしてほしいです

・コロナ禍でなかなか集まったり勉強会を行うことができない

・病院勤務から施設が変わって、苦痛に思うことは利用者さんを病院に受診に連れて行った際、入院になると必ず「退院時にはそちらに帰れるんですよ。でないと入院は難しい」と言われます。特養なら部屋はとっておけますが、状態に応じてすぐ施設とはいかない場合があります。又老健の場合は退院するとそこで施設も退所です。なので退院しても部屋が空いてない、又再度入所判定があるなどがあります。退院調整する方や病院の方にそのことの理解を深めてもらいたい。

病院対象のものが多く研修に行くことがない。特養など老人施設で困ることや知りたいことをしてほしい。

・介護施設(特養)のNs は人数が少なく、協力医療機関や施設医などとの連携など、様々な悩みを抱えています。いろいろな施設の現状、特に看取りがどのように行われているのか？情報交換が行える時間があればと思う。

興味のある研修に参加しているが、前回と同じ内容で(スキルアップ目的)新しい情報ではなく、残念に思うことが多々ある。

・施設向けの研修を増やしてほしい。

・意欲的スタッフが数名おります。そのため、各自自費で研修へ参加しております。それを後日スタッフへ勉強会で発表してくれています。休みを利用しての研修は、そこまでの意欲がわからない。自宅での親の介護があり興味のないものにはいかない。また、仕事として研修へ行くとNs が一人で対応となることが多く、事故のもととなりえる。

## (2)その他

・コロナウイルス対応も、3年目となり、行動や働き方が変化してきた。自分自身と近い人間がワクチンを打ち、幸せでも、世界のいろいろな人間が、ワクチンを打ち、幸せにならないと、このウイルスに終わりは見えない。生き方や考え方を深く考えさせてくれるウイルスである。その中で、看護をしている自分自身に対して、時に厳しく、そして時にありがたいと思う。

・たぶん、このアンケート内容を見ても施設の看護職員に対する改善は何一つないと思います。施設の看護スタッフ不足の大きな原因。施設は大変です。

介護士は介護加算での給料もあるが Nsにはない。同じ職場におり、看護・介護業務を行っているのに不公平だと思う。

・介護士へは処遇改善加算が支給されたが、特養 Nsも病院以上にケア etc に対応している。病院 Ns との差が理解して対応していただきたいです。要 3~の入所になり、重症化、医療を必要とする方の入所が多くなり、日常的にも看護師の仕事量は増えています。休憩も十分とれずの毎日であり、さらにコロナウイルスの感染対策に取り組んでいますが、CW、事務所 etc 温度差もあり、難しい中頑張っているところです。

・病院機能が明確化され、入院期間短縮で医療費の削減は可能となるのは知りませんが、そのしわ寄せが在宅や施設に重くのしかかってくるように思います。状態の安定した方が生活介護支援目的で入るはずが、観察が必要で何かあればすぐ対処しないといけない人が多く入るようになり、受け側は看護師の能力と経験が必要になります。

・病院とは違い、モニターや医師がすぐいるわけではないので、常に気を張っていないといけないのです。

・また、異常があり医師に報告しても、利用者さんの状態を観ていないので看護師の報告だけで指示が出されます。時には医師に理解してもらえず焦燥感とやるせなさにこの仕事へのやりがいも削り取られていく気がします。

・病院は看護部という組織に守られています。しかし施設は頼れるのはじぶんだけです。そこが離職につながったり、人が来ない原因なのではないでしょうか？

オンコール対応が精神的負担が大きい。オンコールがあるために新しい Ns が入ってこない。Dr がいないのでいろいろ判断しなければいけないが、いつも不安でいる。人数がいれば処置以外にも色々やってあげられる事がある。時間に追われてやっているので疲れる。危険も伴う。病院の Dr や Ns が特養の決まりや法律を理解しておらず、受診や退院時に問題が起こることがある。そちらももう少し理解していただけると助かる。

・福祉の Ns ということで病院の Ns と比べ給与も看護価値も低くみられがちであると感じる。介護職と比べても待遇も悪いように感じる。実際、私自身も施設の看護師なんて…とっていましたが、働いてみると、認知症の方の訴えは難しく看護もさながら介護も大変だと感じました。体調変化の判断も難しく、経験をつんだ看護師が必要とされる現場であると思います。すべてをオールマイティに考え、対応していく大変さはありますが、やりがいのあることだと思います。病院以上に多職種との連携を密にとらないと入所者の方に迷惑がかかってしまうのも事実だと思います。

・どこの施設でも同じだと思いますが、服薬についてです。Dr 指示は食後ですが、本当に全員食後に服用しているか、食前を含め 50 名近くの入所者さんの服薬していたら全員食事終了後になんて無理です。お膳を片付けられてしまったり、長時間食事する人もいるので、それを待っていると就業時間を超えてしまいます。県から来られる監査の方は指示通りの投与を求められています。

当施設は看護協会に入会することを拒否している人が多数です。そのため、研修参加には非協力的です。全体的に医療知識レベルをアップしたいのが希望ですが、困難だと考えています。

皆、人数のいない日々、無理を重ねて仕事をし、有休もない取らせてもらえない状況で、時間外手当もすんなりいただけない中、頑張ってくれています。しかし、管理者は目の前の牛が目に入らず、ノミが見える状況です。これでは離職率上昇とやる気がなく仕事をしているスタッフを見ているのはとてもつらいです。好きでしていても、生活のためでもあり、自分を高めていくことも必要、やりがいを求めても何の見返りもなく、仕事をするのは本当にいいことなのでしょうか。「他はもっと厳しいんだ」で終わらせ筋の通らない士気を下げる発言が多い。

・オンコールが月に 10～11 回程度あるため、精神的に疲れる。看護師の配置人数は足りているが人数が少ないため長期休暇が取れない。

#### IV まとめ

##### 1. 回答の属性

- 1) WEB 調査から 121 件の回答があり、そのうち同意を得られた 120 件を分析対象とした。
- 2) 回答した施設は特別養護老人ホーム 70.8%、介護老人ホーム 29.2%であった。
- 3) 回答した施設看護職員の年齢は、50 歳代 47.5%40 歳代 24.2%60歳以上 18.3%30 歳代 9.2%20 歳代 0.8%であった。

##### 2. 雇用状況について

- 1) 雇用形態は、正規職員 90%非正規職員 10%であった。
- 2) 給与状況については、介護老人保健施設は、一カ月の総支給額は 30 万円以上 40 万円未満が 16 人、20 万円以上 30 万円未満が 11 人であった。特別養護老人ホームの一カ月の総支給額は、20 万円以上 30 万円未満が 37 人、30 万円以上 40 万円未満が 17 人であった。
- 3) 給与状況について介護老人保健施設の1回の夜勤手当では 5,000 円以上 10,000 円未満が 14 件、10,000 円以上 15,000 円未満が 14 件でした。特別養護老人ホームは無回答が多いが、手当なしが 12 人であった。
- 4) 1回のオンコール手当については介護老人保健施設は、無回答 21 人、手当なしが 10 人であった。特別養護老人ホームは、1 回当たりのオンコール手当は、1 万円以上 1 万 5 千円未満が 38 人、5 千円以上 1 万円未満 11 人であった。
- 5) 自分の給与が仕事に見合った金額と感じるかについて、介護老人保健施設については、少ないと思うが 63%、こんなものと思う 31%、十分もらっている 6%であった。特別養護老人ホームは、少ないと思う 50%、こんなものと思う 48%、十分もらっている 2%であった。

##### 3. 施設内での通常業務について

- 1) 食事に関するケアでは、介護老人保健施設では、食事介助 31 件、経腸栄養の管理 33 件であった。特別養護老人ホームでは、食事介助 71 件、経管栄養の管理 11 件であった。
- 2) 排泄に関するケアでは、介護老人保健施設では、浣腸が 38 件、トイレ介助とおむつ交換が 33 件、敵便 2 件であった。特別養護老人ホームでは、トイレ介助 47 件、おむつ交換 44 件、摘便 39 件、浣腸 42 件、尿留置カテーテル交換 26 件、導尿 10 件、スーマケア 3 件であった。
- 3) 清潔に関するケアでは、介護老人保健施設では、洗面介助 13 件、陰部洗淨 13 件、口腔ケア 14 件であった。特別養護老人ホームでは、爪切り 50 件、口腔ケア 45 件、陰部洗淨 40 件、清拭 30 件、手浴・足浴 55 件、洗面介助と入浴介助 25 件、であった。
- 4) 環境整備では、介護老人保健施設は、環境整備 32 件、シーツ交換ベッドメイキング 24 件であった。特別養護老人ホームは、医療安全 57 件、環境整備 35 件、シーツ交換・ベッドメイキング 20 件であった。

- 5) 運動に関するケアでは、介護老人保健施設では、移動・移乗介助 34 件、リハビリテーション 18 件、レクリエーション企画 13 件であった。特別養護老人ホームでは、移動・移乗介助 51 件、リハビリテーション 38 件、レクリエーション企画 33 件であった。
  - 6) 医療行為に関するケアでは、介護老人保健施設では、創処置(褥瘡等)33 件、酸素吸入 32 件、注射・点滴・インスリン等 29 件、与薬 22 件の順に多かった。特別養護老人ホームでは、創処置(褥瘡等)82 件、与薬 71 件、酸素吸入 68 件、注射・点滴・インスリン等 42 件の順に多かった。
  - 7) 観察・アセスメントでは、介護老人保健施設では、バイタルサインの測定 35 件、症状の観察・アセスメント 34 件、急変時対応 34 件であった。特別養護老人ホームでは、症状の観察・アセスメント 85 件、急変時の対応 84 件、バイタルサインの測定 79 件であった。
  - 8) 終末期に関するケアでは、介護老人保健施設では、看取り 27 件、エンゼルケア 28 件、家族ケア 6 件、疼痛ケア 18 件であった。特別養護老人ホームでは、看取り 69 件、エンゼルケア 67 件、家族ケア 19 件、疼痛ケア 43 件であった。
  - 9) 記録・管理に関することでは、介護老人保健施設では、記録 35 件、申し送り・チームカンファレンス 35 件と多く、次いでケアプラン立案・評価 17 件、入退所手続き 8 件、サービス担当者会議 7 件であった。特別養護老人ホームでは、申し送り・チームカンファレンスが 111 件、記録 82 件、ケアプラン立案・評価が 69 件と多く、次いでサービス担当者会議 22 件、入退所手続き 14 件であった。
  - 10) 他職種との連携では、介護老人保健施設では、医師との連携・相談 35 件、病院受診付き添い 32 件であった。特別養護老人ホームでは、医師との連携・相談 85 件、病院受診付き添い 82 件であった。
  - 11) 指導・教育では、介護老人保健施設では、感染対策 34 件、家族連絡・相談・指導と職員指導、入退所指導 33 件であった。特別養護老人ホームでは、家族連絡・相談・指導 33 件、職員指導 32 件、入退所指導 26 件であった。
  - 12) その他具体的な内容についても、幅広い業務量であった。
4. 現在の業務内容の不安について
- 1) 介護老人保健施設も特別養護老人ホームも不安に感じることがある 81%、不安に感じることはない 19%であった。
  - 2) 不安に感じる業務内容では、急変時の対応 62 件、看護職員の配置数 57 件、感染対策 57 件、職場内の人間関係 53 件の順に多かった。
  - 3) 医療行為についての不安では、知識・技術、安全面(等を削除)についての不安が多い。
  - 4) 労働環境についての不安では、夜勤 1 人体制、人員不足、労働時間に対する不満や不安が多かった。
5. 研修体制について
- 1) 介護老人保健施設では、施設内での研修体制が整っていない 59%、整っている 41%であった。特別養護老人ホームでは、整っていないと整っているがいずれも 50%であ

った。

- 2) 施設外研修への参加では、介護老人保健施設では、参加したことがない 56%、参加したことがある 44%であった。特別養護老人ホームでは、参加したことがない 66%、参加したことがある 34%であった。
- 3) 参加したことがない理由では、仕事が忙しい 32 件、看護職の人数が少ない 30 件、研修の情報が入らない 23 件の順に多かった。
- 4) オンライン研修の体制は、介護老人保健施設では、整っている 82%、整っていない 18%であった。特別養護老人ホームでは、整っている 82%、整っていない 18%であった。
- 5) オンライン研修であれば院外研修も参加できるかでは、介護老人保健施設は、参加できる 56%、上司の理解があれば参加できる 17%、仕事には時間がない 18%、仕事には参加できない 9%であった。特別養護老人ホームでは、参加できる 50%、上司の理解があれば参加できる 31%、仕事には時間がない 15%、仕事には参加できない 4%であった。

#### 6. 看護協会の研修に参加したことがあるか

- 1) 介護老人保健施設では、以前の職場で参加した 36%、現在の職場で参加した 49%
- 2) 参加したことがない 15%であった。特別養護老人ホームでは、以前の職場で参加した 35%、現在の職場で参加した 49%参加したことがない 16%であった。

## 参考資料

令和4年1月7日

施設長  
施設代表者様

【研究代表者】  
(公社) 岡山県看護協会  
社会経済福祉委員会 小野智子

調査へのご協力をお願い

介護老人福祉施設等では、要介護3以上の重度者や医療ニーズの高い利用者が増えており、看護職は個別の看護ケア、看取り、コロナ禍での感染管理等のマネジメントなど多様な場面での対応が求められています。しかし、施設内の看護職の人員は少ない上、離職率も21.5%（2014年度離職率 2015年日本看護協会調査結果）高く、病院看護職離職率11.5%（2019年度離職率 2020年日本看護協会調査）より高くなっています。賃金は、平均給与総月額310,395円（平均年齢46.0歳）（2016年12月支給分 2017年日本看護協会調査）でこれは病院と比較して低くなっています。また自己研鑽上の課題は、「時間がない」「職員人数が少なく、外部研修にでられない」（2020年日本看護協会調査）が上位を占めており研修参加の難しさが示されています。これらはすべて日本看護協会調査によるものであり、岡山県看護協会では、2019年「高齢者ケア施設で働く看護職の実態調査」があるのみです。この調査でも離職率、賃金額についての調査はできていませんが、「看護職員が不足している」「病院より基本給が低い」と感じているの回答が多くみられました。また業務内容に不安を感じているが83.3%でした。岡山県の介護老人福祉施設等での看護職の労働環境改善、質向上の検討をするためにもまず実態調査の把握が必要と考え、今回介護老人福祉施設等で働く看護職員の実態調査を行うこととしました。

つきましては、同意説明書をご覧の上、研究にご協力頂きますようお願い申し上げます。なお貴所属看護職員の回答者1名の方は、施設代表者の方で決めて頂き、周知をよろしくお願い申し上げます。

またこの研究への参加・不参加は自由意思によりものであること、不参加により不利益を被ることはないことの周知をお願いします。

なお、回答期限を令和4年1月31日までとさせていただきますので予めご了承ください。

### 【調査に関する連絡先】

公益社団法人 岡山県看護協会 社会経済福祉委員会委員長 小野智子  
〒700-0805 岡山市北区兵団4-31  
TEL：086-226-3638（代表） e-mail: qq5m86my9@clock.ocn.ne.jp

令和4年1月7日

看護職員様

**【研究代表者】**

(公社)岡山県看護協会  
社会経済福祉委員会 小野智子

調査へのご協力をお願い

介護老人福祉施設等では、要介護3以上の重度者や医療ニーズの高い利用者が増えており、看護職は個別の看護ケア、看取り、コロナ禍での感染管理等のマネジメントなど多様な場面での対応が求められています。しかし、施設内の看護職の人員は少ない上、離職率も21.5%（2014年度離職率 2015年日本看護協会調査結果）高く、病院看護職離職率11.5%（2019年度離職率 2020年日本看護協会調査）より高くなっています。賃金は、平均給与総月額310,395円（平均年齢46.0歳）（2016年12月支給分 2017年日本看護協会調査）でこれは病院と比較して低くなっています。また自己研鑽上の課題は、「時間がない」「職員の人数が少なく、外部研修にでられない」（2020年日本看護協会調査）が上位を占めており研修参加の難しさが示されています。これらはすべて日本看護協会調査によるものであり、岡山県看護協会では、2019年「高齢者ケア施設で働く看護職の実態調査」があるのみです。この調査でも離職率、賃金額についての調査はできていませんが、「看護職員が不足している」「病院より基本給が低い」と感じているの回答が多くみられました。また業務内容に不安を感じているが83.3%でした。岡山県の介護老人福祉施設等での看護職の労働環境改善、質向上の検討をするためにもまず実態調査の把握が必要と考え、今回介護老人福祉施設等で働く看護職員の実態調査を行うこととしました。

つきましては、同意説明書をご覧の上、看護職員1名の方に研究にご協力頂き、回答お願いいたします。またこの研究への参加・不参加は自由意思によりものであること、不参加により不利益を被ることはないことはありません。

回答はWebでの回答もしくは同封したアンケート用紙への回答のいずれかをお願いします。なお、回答期限を令和4年1月31日までとさせていただきますので予めご了承ください。

**【調査に関する連絡先】**

公益社団法人 岡山県看護協会 社会経済福祉委員会委員長 小野智子  
〒700-0805 岡山市北区兵団4-31  
TEL：086-226-3638（代表） e-mail: qq5m86my9@c1ock.ocn.ne.jp



## 2021 年度「介護老人福祉施設等で働く看護職員の実態調査」

### ご協力をお願い

社会経済福祉委員会では、岡山県内の介護老人福祉施設等で働く看護職員の現状を調査し、その結果をもとに課題解決、各機関への提言等を行うために実態調査に取り組むこととしました。

回答方法は、インターネットでの回答、調査用紙による回答どちらかをお願いします。

また、結果の分析に際して回答した個人が特定されることはありません。安心してご回答ください。

調査項目のはじめに、この調査について同意の有無を聞いています。この回答をもって同意が得られたとみなします。

本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をよろしくお願いいたします。

#### 【調査対象】

岡山県内の介護老人福祉施設等で勤務をしている看護職員（1施設につき1名）

※看護協会員・非会員は問いません

#### 【調査方法】

◆ 回答方法は2つあります。

1. 岡山県看護協会ホームページ (<http://www.nurse.okayama.okayama.jp>) の専用ページから、または下記の QR コードから回答ページにアクセスして回答
2. この送付状に同封しているアンケート用紙に回答し、同封の返信用封筒にて郵送

◆ ご回答は該当する選択肢の○にチェックするか、文字をご入力ください。

◆ 質問によって、ご回答いただく選択肢は、単回答と複数回答があります。

◆ 回答を始める前に質問内容をホームページから確認いただくとスムーズに入力できます。

◆ 回答の途中で保存はできません。最後まで回答してから終了してください。

◆ 回答締切は、令和4年1月31日（月）です。



アンケート回答ページへはこちら

スマートフォンで左のQRコードを読み取ってください。

※こちらのQRコードは「研究へのご協力をお願い」に添付しているQRコードと同じものです。どちらかで読み取りをして回答をお願いします。

2021年度 介護老人福祉施設等で働く看護職員の実態調査

- ・該当する項目をチェックし、必要な場合は文章を記入してください。  
回答は1施設につき1人、1回としてください。
- ・回答締切 令和4年 1月31日（月）
- ・回答者の属性は統計上必要な質問であるため、回答をしないと次の質問に回答できない設定になっています。必須項目以外で、答えたくない質問には答えなくても構いません。

調査への同意 \*

別紙同意説明文を読み、研究の参加に同意いただけますか。

調査の趣旨を理解し、回答に同意する

同意しない

必須項目は必ず回答してください。未記入の場合は無効になります。また、回答中であってもいつでも途中でやめることができます。必須項目以外で、答えたくない項目には答えなくても構いません。

あなたが勤務している施設についてお伺いします。

1. あなたが現在勤務している施設は何ですか。 \*

介護老人保健施設       特別養護老人ホーム

2. あなたの勤務している施設の入所定員数は何人ですか。 \*

29人以下       30人以上～50人以下       51人以上～100人以下

101人以上

3. あなたの施設の職員数についてお尋ねします。 \*

看護職員数 正規職員（      ）人 非正規職員（      ）人

4. 看護職員の新規採用者数について教えてください。 \*

令和2年4月～令和3年3月の採用者数

正規職員（      ）人      非正規職員（      ）人

5. 看護職員の離職者数について教えてください。 \*

令和2年4月～令和3年3月の退職者数

正規職員（      ）人      非正規職員（      ）人



14. あなたの雇用形態はなんですか。

正規職員     非正規職員

15. 給与についてお伺いします。

あなたの一か月の総支給額を教えてください (                    )

施設に夜勤があれば1回の夜勤手当の金額を教えてください (                    )

施設にオンコール体制であれば一回のオンコール手当を教えてください。  
(                    )

16. あなたの給与は仕事に見合った金額と感じていますか。

十分もらっている     こんなものと思う     少ないと思う (理由                    )

17. あなたの施設の看護職員が通常行っている業務について該当するものすべてチェックを入れてください。

**【食事に関するケア】**

食事介助     経腸栄養の管理     中心静脈栄養カテーテル管理  
 中心静脈栄養ポート

**【排泄に関するケア】**

おむつ交換     トイレ介助     浣腸     摘便     導尿     尿留置カテーテル交換  
 ストーマケア     膀胱瘻

**【清潔に関するケア】**

入浴介助     清拭     洗髪     手浴・足浴     陰部洗浄     洗面介助  
 口腔ケア     更衣介助     爪切り

**【環境整備に関すること】**

環境整備     シーツ交換・ベッドメイキング     医療安全     感染対策

**【運動に関するケア】**

移動・移乗介助     レクリエーション企画・運営     リハビリテーション  
 送迎





28. その他ご意見がございましたら、ご記入下さい。

質問は以上です。

同封の返信用封筒にて、岡山県看護協会 社会経済福祉委員会 事務局宛にお送りください。

ご協力ありがとうございました。

【調査・編集・発行】

公益社団法人 岡山県看護協会

社会経済福祉委員会

2022（令和4）年6月発行